



SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 ライフサイクルマネジ
メントコンソールユーザガイド

■ SAP BusinessObjects 4.0 Support Package 02

2011-04-14

著作権

© 2011 SAP AG. All rights reserved. SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP Business ByDesign、および本書に記載されたその他のSAP製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP AGの商標または登録商標です。Business ObjectsおよびBusiness Objectsロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他のBusiness Objects製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、米国およびその他の国々におけるBusiness Objects S.A.の商標または登録商標です。Business ObjectsはSAPのグループ企業です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書はSAP AGおよびその関連会社(「SAPグループ」)が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAPグループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAPグループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2011-04-14

目次

第 1 章	はじめに.....	5
1.1	このガイドについて.....	5
1.2	ライフサイクルマネジメントコンソールとは.....	5
第 2 章	ライフサイクルマネジメントコンソールの機能.....	7
2.1	権限.....	7
2.2	セキュリティ.....	8
2.3	アプリケーションアクセス権.....	9
第 3 章	ライフサイクルマネジメントコンソールのユーザインタフェースコンポーネント.....	11
第 4 章	はじめに.....	13
4.1	ライフサイクルマネジメントコンソールへのログイン.....	13
4.2	管理オプションの使用.....	14
4.2.1	[システムの管理]オプションの使用	14
4.2.2	上書き設定オプションの使用.....	15
4.2.3	[ロールバック設定]オプションの使用	19
4.2.4	[ジョブ設定]オプションの使用	20
4.2.5	[VMS 設定] オプションの使用	20
4.3	基本設定の設定.....	22
4.4	ログオプション.....	23
第 5 章	ライフサイクルマネジメントコンソールの使用.....	25
5.1	ジョブの新規作成.....	25
5.2	既存ジョブのコピーによるジョブの新規作成	27
5.3	ジョブの検索.....	28
5.4	ジョブの編集	28
5.5	ジョブへの InfoObject の追加	29
5.6	依存オブジェクトの検索	30
5.7	ジョブの依存関係の管理.....	30
5.8	ジョブの昇格.....	32
5.8.1	リポジトリに接続している時のジョブの昇格.....	32

5.8.2	リポジトリに接続していない場合のジョブの昇格.....	34
5.9	ライフサイクルマネジメントコンソールでのジョブのスケジュール	37
5.9.1	ジョブの昇格のスケジュール.....	38
5.9.2	定期および一時停止中のジョブ昇格インスタンスの更新.....	39
5.10	ジョブ履歴の表示	40
5.10.1	ジョブのロールバック.....	41
第 6 章	InfoObject のさまざまなバージョンの管理	45
6.1	サブバージョンファイルのバックアップと復元.....	46
6.1.1	サブバージョンファイルのバックアップ	46
6.1.2	サブバージョンファイルの復元.....	47
第 7 章	コマンドラインオプションの使用.....	49
7.1	Windows でのコマンドラインオプションの実行.....	49
7.1.1	UNIX でのコマンドラインオプションの実行.....	50
7.2	コマンドラインオプションのパラメータ.....	50
7.3	サンプルプロパティファイル.....	56
第 8 章	拡張移送/修正システムの使用.....	59
8.1	前提条件.....	59
8.2	統合の設定.....	60
8.2.1	BusinessObjects の CTS の設定 - ライフサイクルマネジメントコンソールの用法.....	60
8.3	CTS を使用したジョブの昇格.....	64
付録 A	より詳しい情報.....	69
	索引	71

はじめに

1.1 このガイドについて

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 ライフサイクルマネジメントコンソールは、Web ベースツールで、ビジネスインテリジェンス (BI) リソースのリポジトリ間の移動、リソースの依存関係の管理を可能にし、必要に応じて出力先システムで昇格されたリソースのロールバックも行います。同一 BI リソースのバージョン管理もサポートします。

このガイドでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールを紹介し、その機能について説明します。このツールがサポートする機能の使用方法についても説明します。

このガイドは、ライフサイクルマネジメントツールを使用して Web 上でビジネスインテリジェンス (BI) リソースを使用するシステム管理者とユーザを対象としています。

1.2 ライフサイクルマネジメントコンソールとは

ライフサイクルマネジメントコンソールとは、概念の段階から納品まで、製品のライフサイクルに関する情報の管理に伴う一連のプロセスを表します。製品のライフサイクル全体を管理する手順を確立することであり、開発、テスト、運用などのフェーズが含まれます。これらのフェーズは、同じサイトで実行される場合と、地理的に異なる場所で実行される場合があります。

開発用リポジトリに保存されている BI リソースを、デプロイメントをテストするためのテスト用リポジトリに転送する必要があります。高品質で競争力の高い製品を得るには、リポジトリ間での転送にかかる時間を最小限に抑える必要があります。これらのリソースに含まれる依存関係も、リポジトリ間で移動する必要があります。これらのリソースは依存オブジェクトとともに移動する必要があるため、リソースの依存関係によってリソースの移動が複雑になります。

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 ライフサイクルマネジメントコンソールは、システム間での BI リソースの移動を、その依存項目に影響を与えずに行うことができる Web ベースのツールです。また、このツールを使用して、さまざまなバージョンの BI リソースを管理したり、BI リソースの依存関係を管理したり、昇格したリソースをロールバックして出力先システムを以前の状態に戻すことができます。

ライフサイクルマネジメントコンソールツールは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform アプリケーション用のプラグインです。BI リソースを別のシステムに昇格できるのは、ソースシステムと移動先システムの両

方に同じバージョンの SAP BusinessObjects Business Intelligence platform アプリケーションがインストールされている場合だけです。

ライフサイクルマネジメントコンソールの機能

ライフサイクルマネジメントコンソールは、以下の機能に対応しています。

- ・ 昇格: この機能では、出力先システムのInfoObject を作成または更新できます。InfoObject の昇格とは別に、以下のタスクを実行することができます。
 - ・ ジョブの新規作成
 - ・ 既存のジョブのコピー
 - ・ ジョブの編集
 - ・ ジョブの昇格のスケジュール
 - ・ ジョブ履歴の表示
- ・ 依存関係の管理: この機能では、昇格するジョブの InfoObject の依存を選択、フィルタ、および管理できます。
- ・ スケジュール: この機能では、ジョブの作成直後にジョブを昇格するのではなく、ジョブの昇格の時間を指定できます。[毎時]、[毎日]、[毎週]、または [毎月] のいずれかのパラメータを使用して、ジョブを昇格させる時期を指定できます。
- ・ セキュリティ: この機能では、InfoObject と関連セキュリティ権限を昇格できます。この機能で InfoObject 関連アプリケーション権限も昇格できます。
- ・ 昇格テスト- この機能では、InfoObject を実際に昇格する前に、すべての防止対策が取られているかを確認し昇格をテストできます。
- ・ ロールバック: この機能では、ジョブの昇格後に出力先システムを以前の状態に戻すことができます。ジョブのすべてまたは一部をロールバックできます。
- ・ 監査: ライフサイクルマネジメントコンソールで生成されたイベントは、監査データベースに保存されます。監査機能では、監査データベースに記録されたイベントをモニタリングできます。
- ・ 管理オプション: この機能では、管理者がライフサイクルマネジメントコンソールのパラメータの一部を設定することができます。
- ・ バージョン管理: この機能では、同ドキュメントのさまざまなバージョンを管理できます。ディレクトリの変更を追跡することもできます。
- ・ 上書きの昇格: この機能では、ジョブの昇格を介して上書きを昇格できます。

2.1 権限

適切な権限がある場合に限り、ライフサイクルマネジメントコンソールツールを使用してソースシステムにログインすることができます。ただし、ユーザがジョブを昇格するには、ソースシステムと出力先システムの両方で適切な権限が必要です。

ライフサイクルマネジメントコンソールツールを使用すると、ジョブの作成、編集、または昇格中に別の CMS にログインすることができます。適切な権限がある場合は、CMS ドロップダウンリストから適切な CMS を選択できます。ライフサイクルマネジメントツールユーザがログインできる CMS の一覧は、管理者が作成します。その一覧に新たな CMS を追加することもできます。

CMS にログインするたびに、ライフサイクルマネジメントコンソールツールではジョブセッションのログイン認証情報が保存されます。したがって、1 回のセッションで同じ CMS に何度もログインする必要はありません。

以下の表は、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでさまざまな操作を実行するために必要な権限タイプの一覧です。

ライフサイクルマネジメントコンソールのユーザ権限	操作
ジョブの作成	ジョブを作成する
ジョブの編集	ジョブとフォルダを編集し、InfoObject、ユーザグループ、およびフォルダを追加する
ジョブの昇格	ジョブを昇格またはジョブを昇格テストする
ジョブの削除	ジョブを削除する
LCMBIAR ファイルとしてエクスポート	LCMBIAR ファイルとしてエクスポートする
LCMBIAR ファイルを編集	LCMBIAR ファイルを編集する
ジョブのロールバック	ジョブをロールバックする
管理オプションの使用	ライフサイクルマネジメントコンソールツールのさまざまなオプションを設定する
接続プロパティの編集	接続のプロパティを編集する
バージョン管理システムの使用	バージョン管理システムを設定する

2.2 セキュリティ

ライフサイクルマネジメントコンソールツールは、以下の検索オプションに対応しています。

- ・ セキュリティを昇格しない: このオプションを選択すると、関連セキュリティ権限抜きでジョブが昇格されます。これはデフォルトオプションです。
- ・ セキュリティを昇格: このオプションを選択すると、ジョブと関連セキュリティ権限が昇格されます。
- ・ アプリケーションの権限を含める: ジョブに含まれている InfoObject がアプリケーションの権限を継承する場合には、ジョブとともにそれらの権限が昇格されます。このオプションは [セキュリティを昇格] を選択した場合にのみ有効になります。

次の表では、サポートされているセキュリティオプションに関連した InfoObject の動作について説明します。

動作	セキュリティを伴う昇格	セキュリティを伴わない昇格
出力先システムに InfoObject が存在しない場合。	出力先システムに InfoObject が作成されます。InfoObject の権限は、ソースシステムと出力先システムの両方で同じです。	InfoObject が出力先システムに作成され、出力先システムの権限を継承します。
出力先システムに InfoObject が存在する場合。	出力先システムに InfoObject がコピーされます。InfoObject の権限は、ソースシステムの権限と同じです。	ただし InfoObject が更新された場合にも、権限は変わりません。
出力先システムにユーザまたはユーザグループが存在しない場合。	出力先システムに、ユーザまたはユーザグループが作成されます。ソースシステムの権限は、出力先システムに継承されます。	ユーザまたはユーザグループがプライマリオブジェクトである場合には、出力先システムに昇格されます。プライマリオブジェクトでない場合は、昇格されません。
出力先システムにユーザまたはユーザグループが存在する場合。	ユーザまたはユーザグループが出力先システムにマップされます。ユーザまたはユーザグループの権限は、ソースシステムと出力先システムの両方で同じです。	ユーザまたはユーザグループが出力先システムにマップされます。出力先システムでのユーザまたはユーザグループの権限は変わりません。
ユニバース 制限セット	ユニバースとその制限セットおよび権限は昇格されます。	ユニバースとその制限セットは昇格されます。セキュリティ権限は除外されます。

注

ライフサイクルマネジメントコンソールツールは、セキュリティ権限のマージには対応していません。

2.3 アプリケーションアクセス権

このセクションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールのアプリケーションアクセス権限について説明します。

- ・ CMC 内でライフサイクルマネジメントコンソールアプリケーションに対するアクセス権限を設定することができます。
- ・ ライフサイクルマネジメントコンソール内でさまざまな機能に対する詳細なアプリケーション権限を設定することができます。

ライフサイクルマネジメントコンソールアプリケーションの特定の権限を設定するには、以下の手順に従います。

- 1 CMC にログインし、[アプリケーション] を選択します。
- 2 [ライフサイクルマネジメント] をダブルクリックします。
- 3 [ユーザセキュリティ] をクリックしてから、[管理者] を選択します。

[ビューセキュリティ] タブが有効化されます。

- 4 設定する権限を選択します。
次の権限を設定できます。

- ・ ジョブの作成
- ・ ジョブの編集
- ・ ジョブの昇格
- ・ BIAR ファイルのエクスポート
- ・ BIAR ファイルの編集
- ・ ジョブの削除
- ・ ジョブのロールバック
- ・ 管理オプションの使用
- ・ 接続プロパティの編集
- ・ バージョン管理システムの使用

5 [OK] をクリックします。

ライフサイクルマネジメントコンソールアプリケーションのアクセス権限が CMS 内に設定されます。

ライフサイクルマネジメントコンソールのユーザインタフェースコンポーネント

この章では、ライフサイクルマネジメントコンソールツールの GUI コンポーネントについて説明します。

ライフサイクルマネジメントコンソールツールのホームページは、以下のパネルに分かれています。

- ・ ライフサイクルマネジメントコンソールのワークスペースツールバー
- ・ ワークスペースパネル
- ・ ツリーパネル
- ・ 管理者および詳細パネル
- ・ ショッピングカートおよびジョブビューアページ

ライフサイクルマネジメントコンソールのワークスペースツールバー

ライフサイクルマネジメントコンソールのワークスペースツールバーには、フォルダの作成および削除、新規ジョブの作成、編集、昇格、ジョブのロールバック、BIAR ファイルのインポート、プロパティのチェックなどを実行するオプションが表示されます。

ワークスペースパネル

ライフサイクルマネジメントコンソールのホームページのワークスペースパネルには、新たに作成されたジョブの一覧が表示されます。このパネルを使用して、ジョブ名、ジョブのステータス、ジョブ作成情報、昇格の概要、昇格テストの概要、依存関係管理画面、出力先システム情報を表示できます。

ツリーパネル

ライフサイクルマネジメントコンソールのホームページのツリーパネルには、[昇格ジョブ] フォルダと [昇格のステータス] フォルダがツリー構造で表示されます。新たに作成されたジョブは、[昇格 ジョブ] フォルダの下に階層構造で表示されます。昇格されたジョブは [昇格のステータス] フォルダ内に昇格ステータス別に表示されません。

管理者および詳細パネル

管理者および詳細パネルには、[管理オプション] リンクが表示されます。システム管理者はこのリンクから [管理オプション] にアクセスできます。このパネルには [基本設定] リンクも表示されます。管理者とユーザはこのリンクを使用してライフサイクルマネジメントコンソールの基本設定を行うことができます。[ヘルプ] リンクおよび [バージョン情報] リンクを使用して、ライフサイクルマネジメントコンソールツールの使用に関する詳細情報を取得することができます。

ショッピングカートおよびジョブビューアページ

ショッピングカートは動的に生成される階層ツリー表示であり、昇格対象 InfoObject が表示されます。選択したオブジェクトと依存オブジェクトの両方のルートフォルダとオブジェクトフォルダが表示されます。ジョブビューアページでは、ジョブに追加された InfoObject を表示できます。

はじめに

このセクションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールの基本操作とさまざまなオプションの設定方法について説明します。

4.1 ライフサイクルマネジメントコンソールへのログイン

このセクションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールへのログイン方法について説明します。

ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインするには、以下の手順に従います。

- 1 [スタート] > [プログラム] > [SAP BusinessObjects 4.0] > [SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform] > [ライフサイクルマネジメントコンソール] の順に選択します。
ライフサイクルマネジメントコンソールのログイン画面が表示されます。
- 2 [システム] フィールドには、ライフサイクルマネジメントコンソールツールをインストールする Central Management Server (CMS) の名前を入力します。
- 3 [ユーザ名]と[パスワード]を入力します。
- 4 [認証]ドロップダウンリストから適切な認証方法を選択します。

ライフサイクルマネジメントコンソールツールは、次の認証の種類に対応しています。

- ・ Enterprise: SAP BusinessObjects Business Intelligence platform で使用する固有のアカウントとグループを作成するには、システムデフォルトの Enterprise 認証を使用します。
- ・ LDAP: LDAP ディレクトリサーバを設定している場合は、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform の既存の LDAP ユーザアカウントおよびグループを使用できます。
- ・ Windows AD: SAP BusinessObjects Business Intelligence platform の既存の Windows AD ユーザアカウントおよびグループを使用できます。
- ・ SAP: 既存の SAP BusinessObjects Business Intelligence platform アカウントにマップすることができます。SAP ロールをマップすると、ユーザは、SAP 認証情報を使用して SAP BusinessObjects Business Intelligence platform アプリケーションにログオンできます。

LDAP 認証、Windows AD 認証、その他のサードパーティ認証の種類には特別な設定が必要です。これらの認証の種類の設定に関する情報については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 管理者ガイド』を参照してください。

- 5 [ログオン]をクリックします。

[昇格ジョブ] ホームページが表示されます。

注

ライフサイクルマネジメントフォルダの表示権限があれば、どのユーザでもライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインすることができます。ただし、ジョブを作成、スケジュール、または昇格するには、管理者から追加権限を得る必要があります。

4.2 管理オプションの使用

ある SAP BusinessObjects Enterprise デプロイメントから別の SAP BusinessObjects Enterprise デプロイメントおよび SAP デプロイメントへ InfoObject を昇格する前に、管理オプションで設定することができます。このセクションでは、管理オプションの使用方法について説明します。

管理オプションにアクセスするには、[昇格ジョブ]画面で[管理オプション]リンクをクリックします。[管理オプション]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、次のオプションが表示されます。

- ・ システムの管理: このオプションでは、ホストシステムを追加および削除できます。
- ・ 上書き設定: このオプションでは、出力先システムに昇格されたジョブ内で、データ接続、CR 接続、および QaaWS などの InfoObject のプロパティを上書きすることができます。ソースシステムから昇格された InfoObject のプロパティを上書きします。
- ・ ロールバック設定: このオプションでは、システムレベルでロールバック処理を設定できます。
- ・ ジョブ設定: このオプションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールシステムに存在可能なジョブインスタンス数をいつでも指定することができます。指定された数を超えるとジョブは自動的に削除されます。ジョブがライフサイクルマネジメントコンソールから削除されるまでの日数をユーザが指定することもできます。
- ・ VMS 設定: このオプションでは、バージョン管理システムを設定できます。

4.2.1 [システムの管理]オプションの使用

このセクションでは、[システムの管理]オプションの使用方法について説明します。このオプションを使ってホストシステムを追加または削除できます。

ホストシステムを追加するには、次の手順に従います。

- 1 [管理オプション]ウィンドウで[システムの管理]オプションをクリックします。
[システムの管理]ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、ホスト名、ポート番号、表示名、および説明の一覧が表示されます。
- 2 [追加]をクリックします。
[システムの追加]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ホスト名、ポート番号、表示名、および説明を該当するフィールドに追加します。

注

['ソース' とする] オプションを選択して、システムをソースシステムとして特定します。

- 4 [OK] をクリックして、システムに追加します。

一覧にホストシステムが追加されます。

注

ホストシステムを削除するには、削除するホストシステムを選択してから[削除]をクリックします。

ホスト名、ポート番号、表示名、および説明を編集することもできます。

4.2.2 上書き設定オプションの使用

上書き設定オプションを使用すると、ジョブの昇格または BIAR ファイルを介して、上書きを昇格できます。

4.2.2.1 上書きの昇格

上書きを昇格する前にホストシステムを追加してください。ホストシステムの追加についての詳細は、14 ページの「[\[システムの管理\]オプションの使用](#)」を参照してください。

上書きを昇格するには、次の手順に従います。

- 1 [管理オプション] ウィンドウで [上書き設定] オプションをクリックします。
[上書き設定] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ログイン] をクリックします。
[システムにログイン] ウィンドウが表示されます。
- 3 オブジェクトをスキャンするには、[ソース] が付いているソースシステムを選択し、有効な認証情報を使用して、システムにログインします。
- 4 [スキャン] の横にある [開始] ドロップダウンリストで、[開始] オプションを選択します。

上書き設定

システム: 種類: ☒ Log Off

上書き一覧:

更新日時: Jun 30, 2010 10:31 PM (最終スキャン: Success)

接続の上書き QaaWSの上書き Crystalレポートの上書き				
● アクティブ ✕ 削除 最新表示				
選択	ステータス	LCM 接続	データベースの種類	最終更新日時
<input type="checkbox"/>	● Active	eFasion	CCIS.DataConnection	Wed Jun 16 17:01:25 CEST 2010
<input type="checkbox"/>	● Active	test	CCIS.DataConnection	Fri Jun 18 11:04:40 CEST 2010
<input type="checkbox"/>	● Active	efashion	CCIS.DataConnection	Fri Jun 18 11:04:40 CEST 2010

スキャン処理が開始されます。[上書き一覧] が表示されます。

注

ユーザの基本設定に応じてスキャンをスケジュールするには、ドロップダウンリストから [定期的スケジュールの設定] オプションを選択します。

- 5 上書き一覧で、昇格するオブジェクトのステータスをアクティブに変更し、[保存] をクリックします。
- 6 [上書きの昇格] をクリックします。
出力先システムの一覧が表示される場所に、[上書きの昇格] 画面が表示されます。
- 7 [ログイン] をクリックして、有効な認証情報を使用して出力先システムにログインします。
複数の出力先システムを指定することができます。
- 8 [昇格] をクリックします。
- 9 [上書き設定] 画面から [ログイン] をクリックします。
[システムにログイン] ウィンドウが表示されます。
- 10 有効な認証情報を使用して、出力先システムにログインします。
昇格したすべてのオブジェクトの一覧が [上書き一覧] に表示されます。これらのオブジェクトのステータスは非アクティブです。
- 11 編集するオブジェクトの [選択] チェックボックスをオンにして、[編集] をクリックします。
- 12 必要な値を更新して、[完了] をクリックします。
- 13 オブジェクトの状態をアクティブに変更し、[保存] をクリックします。

4.2.2.2 BIAR ファイルを使用した上書きの昇格

上書きを昇格する前にホストシステムを追加してください。ホストシステムの追加についての詳細は、14 ページの「[\[システムの管理\]オプションの使用](#)」を参照してください。

BIAR ファイルを使用して上書きを昇格するには、次の手順に従います。

- 1 [管理オプション] ウィンドウで [上書き設定] オプションをクリックします。
[上書き設定] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ログイン] をクリックします。
[システムにログイン] ウィンドウが表示されます。
- 3 [上書き設定] 画面で、[ソース] が付いているソースシステムを選択してオブジェクトをスキャンし、有効な認証情報を使用してシステムにログインします。
- 4 [スキャン] の横にある [開始] ドロップダウンリストで、[開始] オプションを選択します。
スキャン処理が開始されます。[上書き一覧] が表示されます。

上書き設定

システム: 種類: ☒ Log Off

上書き一覧:

更新日時: Jun 30, 2010 10:31 PM スキャン Stop (最終スキャン: Success)

接続の上書き				
選択	ステータス	LCM 接続	データベースの種類	最終更新日時
<input type="checkbox"/>	Active	eFasion	CCIS.DataConnection	Wed Jun 16 17:01:25 CEST 2010
<input type="checkbox"/>	Active	test	CCIS.DataConnection	Fri Jun 18 11:04:40 CEST 2010
<input type="checkbox"/>	Active	efashion	CCIS.DataConnection	Fri Jun 18 11:04:40 CEST 2010

上書きの昇格 保存 閉じる

注

ユーザの基本設定に応じてスキャンをスケジュールするには、ドロップダウンリストから [定期的スケジュールの設定] オプションを選択します。

- 5 上書き一覧で、必要なオブジェクトのステータスをアクティブにし、[保存] をクリックします。
- 6 [上書きの昇格] をクリックします。
出力先システムの一覧が表示される場所に、[上書きの昇格] 画面が表示されます。
- 7 パスワードを使用して BIAR ファイルを暗号化するには、[パスワード暗号化] チェックボックスをクリックします。
[パスワード] と [パスワードの確認] フィールドが有効になります。
- 8 [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。[パスワードの確認] フィールドに同じパスワードを再入力します。
- 9 [エクスポート] をクリックし、BIAR ファイルをファイルシステムに上書きします。
- 10 LCM ツールを使用して出力先システムにログインし、[インポート] > [ファイルの上書き] をクリックします。

[LCMBIAR ファイルのインポート] ウィンドウが表示されます。

- 11 [参照] をクリックして BIAR ファイルを参照します。
- 12 [パスワード] フィールドに BIAR ファイルのパスワードを入力します。

注

[パスワード] フィールドは、選択した BIAR ファイルがパスワードを使用して暗号化されている場合のみ表示されます。

- 13 [OK] をクリックします。
- 14 [上書き設定] 画面から [ログイン] をクリックします。
[システムにログイン] ウィンドウが表示されます。
- 15 有効な認証情報を使用して、出力先システムにログインします。
インポートされたオブジェクトの一覧が上書き一覧に表示されます。これらのオブジェクトのステータスは非アクティブです。
- 16 編集するオブジェクトの [選択] チェックボックスをオンにして、[編集] をクリックします。
- 17 必要な値を更新して、[完了] をクリックします。
- 18 オブジェクトのステータスを [アクティブ] に変更し、[保存] をクリックします。

4.2.2.3 CTS+ を使用した上書きの昇格

上書きを昇格する前にホストシステムを追加してください。ホストシステムの追加についての詳細は、14 ページの「[\[システムの管理\]オプションの使用](#)」を参照してください。

CTS+ を使用して上書きを昇格するには、次の手順を完了します。

注

このオプションを有効にするために、SAP 認証を使用してライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。

- 1 [管理オプション] ウィンドウで [上書き設定] オプションをクリックします。
[上書き設定] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ログイン] をクリックします。
[システムにログイン] ウィンドウが表示されます。
- 3 オブジェクトをスキャンするには、[ソース] が付いているソースシステムを選択し、有効な認証情報を使用して、システムにログインします。
- 4 [スキャン] の横にある [開始] ドロップダウンリストで、[開始] オプションを選択します。
スキャン処理が開始されます。[上書き一覧] が表示されます。

注

ユーザの基本設定に応じてスキャンをスケジュールするには、ドロップダウンリストから [定期的スケジュールの設定] オプションを選択します。

- 5 上書き一覧で、昇格するオブジェクトのステータスをアクティブに変更し、[保存] をクリックします。

- 6 [上書きの昇格] をクリックします。
出力先システムの一覧が表示される場所に、[上書きの昇格] 画面が表示されます。
- 7 [昇格オプション] ドロップダウンリストから、[CTS+ と昇格] を選択します。
- 8 [昇格] をクリックします。
- 9 次の手順を完了して、出力先システムに上書きをリリースします。
 - a CTS+ のドメインコントローラにログインして、[移送オーガナイザ] Web UI を開きます。移送オーガナイザ Web UI の使用の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/b5/6d03660d3745938cd46d6f5f9cef2e/frameset.htmを参照してください。
 - b 要求のステータスが[変更可能]の場合、[リリース] をクリックして上書きの移送要求をリリースします。非 ABAP オブジェクトを含む移送要求のリリースの詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/55/07c497db8140ef8176715d4728eec1/frameset.htmを参照してください。
 - c [移送オーガナイザ] Web UI を閉じます。
- 10 次の手順を完了して、出力先システムに上書きをインポートします。
 - a CTS+ のドメインコントローラにログインします。
 - b 移送管理システムに入るには、STMS トランザクションを呼び出します。
 - c [インポートの概要] アイコンをクリックします。
[インポートの概要] 画面が表示され、すべてのシステムから、インポートキューのアイテムを見ることができます。
 - d 出力先 LCM システムのシステム ID をクリックします。
システムにインポートできる移送要求の一覧を確認できます。
 - e [最新表示] をクリックします。
 - f 関連する移送要求をインポートします。詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a39e7acc11d1899e0000e829fbbd/frameset.htmを参照してください。
- 11 有効な認証情報を使用して、出力先システムにログインします。
昇格したすべてのオブジェクトの一覧が [上書き一覧] に表示されます。これらのオブジェクトのステータスは非アクティブです。
- 12 編集するオブジェクトの [選択] チェックボックスをオンにして、[編集] をクリックします。
- 13 必要な値を更新して、[完了] をクリックします。
- 14 オブジェクトの状態をアクティブに変更し、[保存] をクリックします。

4.2.3 [ロールバック設定]オプションの使用

[ロールバック設定]オプションでは、システムレベルでロールバック処理を無効化できます。デフォルトでは、システムレベルでロールバック処理が有効化されています。

システムレベルでロールバック処理を無効化するには、次の手順に従います。

- 1 [ロールバック] ウィンドウのホストシステムの一覧から、ロールバックプロセスを無効にするホストシステムを選択します。
- 2 [保存して閉じる]をクリックして変更を保存します。

4.2.4 [ジョブ設定]オプションの使用

[ジョブ設定]オプションでは、システムに存在可能なジョブインスタンス数を指定できます。次のオプションのいずれかを指定できます。

- ・ 1つのジョブにN個以上のインスタンスが存在する場合は、インスタンスを削除します。このオプションにより、システムに存在可能なジョブ1件あたりの最大インスタンス数を指定することができます。
- ・ N日後にジョブインスタンスを削除する-このオプションにより、作成されてから指定日数を経過したすべてのジョブインスタンスを削除する必要があることを指定することができます。

[ジョブ設定]オプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 オプションを選択し、優先値を入力します。
- 2 [保存]をクリックして、更新した変更を保存します。

[デフォルト設定]をクリックしてデフォルト値を設定できます。[閉じる]をクリックしてウィンドウを閉じることができます。

注

古いジョブインスタンスは、次のジョブ実行時に削除されます。

4.2.5 [VMS 設定] オプションの使用

ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、バージョン管理システム設定を設定できます。SubVersionとClearCaseのいずれかのバージョン管理システムを選択できます。

SubVersionの管理システムを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [管理オプション] ウィンドウで [VMS 設定] をクリックします。
- 2 [バージョン管理システム] ドロップダウンリストから [SubVersion] を選択します。

デフォルトでは、ライフサイクルマネジメントコンソールのインストール時に入力したサーバポート、パスワード、リポジトリ名、サーバ名、ユーザ名、ワークスペースディレクトリ、およびインストールパスが、該当するフィールドに表示されます。

バージョン管理システム (VMS) サブバージョン ▼

サブバージョン設定

☒ デフォルトの VMS として使用

サーバ名

サーバポート

ユーザ名

パスワード

インストールパス

リポジトリ名

ワークスペースディレクトリ

- 必要であればフィールドを変更します。

.exe ファイルまで含むインストールパスを入力してください。Windows では、たとえば C:\Program Files (x86)\SAP Business Objects\Business Intelligence platform 4.0\subversion となり、Unix では、/usr/u/qaunix/aurora_730/sap_bobj/enterprise_40/subversion/bin となります。

- [保存] をクリックします。

注

- SubVersion をデフォルトの VMS として使用するには、[デフォルトの VMS として使用]を選択します。
- 手順 3 によりフィールドを変更した場合、Server Intelligence Agent を再起動します。

4.2.5.1 Windows での ClearCase バージョン管理システム (VMS) の設定

Windows に ClearCase のバージョン管理システムを設定するには、次の手順に従います。

- [管理オプション] ウィンドウで [VMS 設定] をクリックします。
- [バージョン管理システム] ドロップダウンリストから [ClearCase] を選択します。

- 3 次の詳細情報を入力します。
 - ・ ClearCase マップドライブ: ドライブ名を入力します。デフォルトでは M ドライブです。例: M:
 - ・ VOB タグ名: Versioned Object Base (VOB) の名前を入力します。例: FridayVB
 - ・ ビュー格納域のディレクトリ: 共有フォルダへのパスを入力します。例: \\HostName\FolderName

注

ホスト名として「localhost」を入力することはできません。

- 4 [保存] をクリックします。

4.2.5.2 Unix での ClearCase バージョン管理 (VMS) システムの設定

Unix に ClearCase のバージョン管理システムを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [管理オプション] ウィンドウで [VMS 設定] をクリックします。
- 2 [バージョン管理システム] ドロップダウンリストから [ClearCase] を選択します。
- 3 次の詳細情報を入力します。
 - ・ ClearCase マップドライブ: MVFS を含むフォルダの名前を入力します。デフォルトは /view です。
 - ・ VOB タグ名: VOB 名、および VOB を含むフォルダを入力します。例: VobFolder/VobName
 - ・ ビュー格納域ディレクトリ: ビューが作成されたディレクトリのパスを入力します。

注

ClearCase をデフォルトバージョン管理システムとして使用する場合には、[デフォルトの VMS として使用] を選択できます。

4.3 基本設定の設定

[昇格ジョブ]画面に表示する必要があるジョブの数を指定できます。特定の期間に作成されたジョブを表示することもできます。

ライフサイクルマネジメントコンソールの基本設定を行うには、以下の手順に従います。

- 1 [昇格ジョブ]画面で[基本設定]リンクをクリックします。
[基本設定]ウィンドウが表示されます。
- 2 [ページサイズの最大値を入力] フィールドで、[昇格ジョブ] 画面のページごとに表示する必要があるオブジェクトの数を指定します。
- 3 指定した期間中に作成されたジョブを表示するために、[表示するジョブの作成期間]ドロップダウンリストから時間間隔を選択します。

注

[基本設定] ページで、製品ロケール、現在のタイムゾーン、および優先表示ロケールを指定することができます。

- 4 [OK]をクリックします。

注

[基本設定]ページで設定された値は、各セッションに固有の値です。

4.4 ログオプション

ライフサイクルマネジメントコンソールツールのログオプションでアプリケーションのログ詳細を取得できます。

ログファイルを見る前に、以下のログのトレース設定を更新する必要があります。

- ・ UI/Web Tier ログ: CMC アプリケーションのトレースログレベルを高に変更します。
CMC のトレースログレベルを設定するには、以下の手順を実行します。
 - 1 [CMCApp] > [アプリケーション] > [セントラル管理コンソール] を起動します。
 - 2 右クリックして、[トレースログ設定] を選択します。
 - 3 ログレベルに [高] を選択します。
- ・ VMS サービス/LCM スキャンおよびサービスログ: AdaptiveProcessingServer のトレースログレベルを高に変更します。

AdaptiveProcessingServer のトレースログレベルを高に設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 [CMCApp] > [サーバ] > [AdaptiveProcessingServer] を起動します。
- 2 右クリックして、[プロパティ] > [トレースログ設定] を選択します。
- 3 ログレベルに [高] を選択します。

- ・ スケジュールサービス: AdaptiveJobServer のトレースログレベルを高に変更します。

AdaptiveProcessingServer のトレースログレベルを高に設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 [CMCApp] > [サーバ] > [AdaptiveProcessingServer] を起動します。
- 2 右クリックして、[プロパティ] > [トレースログ設定] を選択します。

- 3 ログレベルに [高] を選択します。

注

デフォルトではライフサイクルマネジメントコンソールのログレベルは INFO に設定されています。オペレーティングシステムで環境変数を設定できるのは、システム管理者に限られています。環境変数の設定手順はオペレーティングシステムに応じて異なります。

ライフサイクルマネジメントコンソールの使用

昇格ジョブ

ライフサイクルマネジメントコンソールアプリケーションにログインすると、デフォルトで[昇格ジョブ] ページに移動します。[昇格ジョブ] ホームページ画面には、次のタスクを実行できるさまざまなタブが表示されます。

- ・ ジョブ関連処理を選択するには、[新しいジョブ]を選択します。ホームページ画面を右クリックして、一覧からジョブ関連処理を選択することもできます。
- ・ 新しいジョブの作成手順をすべて実行するのではなく、[インポート] > [LCMBIAR ファイルのインポート] を選択して、BIAR ファイルをファイルシステムから直接インポートします。
- ・ 既存のジョブを編集するには、[編集]を選択します。
- ・ ソースシステムから出力先システムにジョブを昇格する、あるいは BIAR ファイルにジョブをエクスポートするには、[昇格]を選択します。
- ・ 出力先システムから昇格されたジョブを復元するには、[ロールバック] を選択します。
- ・ ジョブの以前の昇格インスタンスを表示するには、[履歴]を選択します。
- ・ タイトル、ID、ファイル名、説明など、選択したジョブインスタンスのプロパティを表示するには、[プロパティ]を選択します。

[昇格ジョブ]アプリケーション領域には、システムに存在するジョブの一覧と、次のような各ジョブの情報が表示されます。

- ・ [名前]: 作成したジョブの名前が表示されます。
- ・ ステータス: [作成]、[成功]、[一部成功]、[実行中]、[失敗]などのジョブステータスが表示されます。
- ・ [作成日時]: ジョブが作成された日時が表示されます。
- ・ [最終実行日時]: ジョブが最後に昇格された日時が表示されます。
- ・ [ソースシステム]: ジョブの昇格元システムの名前が表示されます。
- ・ [出力先システム]: ジョブの昇格先システムの名前が表示されます。
- ・ [作成者]: ジョブを作成したユーザの名前が表示されます。

5.1 ジョブの新規作成

このセクションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールを使用してジョブを新規作成する方法について説明します。

次の表では、ジョブの新規作成に使用できる GUI 要素とフィールドについて説明します。

アイテム	説明
名前	作成するジョブの名前。
説明	作成するジョブの説明。
キーワード	作成するジョブのコンテンツのキーワード。
ジョブの保存場所	ジョブを作成するフォルダを参照および選択する必要があります。
ソースシステム	ジョブの昇格元となる SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムの名前。
出力先システム	ジョブの昇格先となる SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムの名前。
ユーザ名	ソースシステムまたは出力先システムへのログインに使用する必要があるログイン ID。
パスワード	ソースシステムまたは出力先システムへのログインに使用する必要があるパスワード。
認証	ソースシステムまたは出力先システムへの接続に使用される認証の種類。 ライフサイクルマネジメントコンソールツールは、次の認証の種類に対応しています。 <ul style="list-style-type: none">・ Enterprise・ Windows AD・ LDAP・ SAP

新しいジョブを作成するには、以下の手順を実行します。

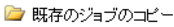
- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 [昇格ジョブ] ホームページで [新しいジョブ] を選択します。
[新しいジョブ]ウィンドウが表示されます。

新しいジョブ *

履歴 リソースの検


依存関係の管理 | 昇格 | ロールバック |

アスタリスク (*) が付いているフィールドは必須フィールドです

名前*: 新しいジョブ1 

説明:

キーワード:

ジョブの保存場所*: 

ソース*:

出力先:

- 適切なフィールドにジョブの名前、説明、およびキーワードを入力します。
- [ジョブの保存場所] フィールドでジョブの保存先となるフォルダを参照および選択します。
- [ソース] および [出力先] ドロップダウンリストから、それぞれソースシステムおよび出力先システムを選択します。

ドロップダウンリストにソースシステムと出力先システムの名前が表示されない場合には、[新しい CMS へのログイン] オプションを選択します。新たなウィンドウが起動します。システム名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。

- [作成] をクリックします。
ソースシステムの CMS リポジトリに新しいジョブが作成および保存されます。

注

[説明]、[キーワード]、および [出力先] の各フィールドへの情報の入力 は任意です。

5.2 既存ジョブのコピーによるジョブの新規作成

既存ジョブをコピーして、新規ジョブを作成することができます。

既存ジョブをコピーして新しいジョブを作成するには、次の手順を実行します。

- ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- [昇格ジョブ] ホームページで [新しいジョブ] をクリックします。

- 3 [既存のジョブのコピー]オプションをクリックします。
[昇格ジョブ] フォルダのジョブ一覧が表示されます。



- 4 ジョブ一覧からジョブを選択し、[作成] をクリックします。
ジョブの名前、キーワード、および説明が表示されます。必要に応じてこれらのフィールドを変更できます。ただし、ソースシステムを変更することはできません。
- 5 [ジョブの保存場所] フィールドでジョブの保存先となるフォルダを参照および選択し、[作成]をクリックします。
新しいジョブが作成されます。

5.3 ジョブの検索

ライフサイクルマネジメントコンソールツールの検索機能では、ライフサイクルマネジメントコンソールリポジトリにあるジョブを検索することができます。

ジョブを検索するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールのホームページの [検索] フィールドに、検索するテキストを入力します。
- 2 [検索] フィールドの横に表示された一覧を選択して、検索パラメータを指定します。ライフサイクルマネジメントコンソールツールは、以下の検索パラメータに対応しています。
 - ・ タイトルの検索
 - ・ キーワードの検索
 - ・ 説明の検索
 - ・ すべてのフィールドの検索
- 3 [検索] アイコンをクリックします。

5.4 ジョブの編集

このセクションでは、ジョブの編集方法について説明します。

注

ジョブの編集はジョブの新規作成とは異なります。

ジョブを編集するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 [昇格ジョブ]ホームページで編集するジョブを選択し、[編集]をクリックします。

選択したジョブの詳細が表示されます。必要に応じて InfoObject を追加または削除できます。

注

ジョブを編集する時に、ソースシステムを別の CMS に変更することはできません。

5.5 ジョブへの InfoObject の追加

各ジョブには InfoObject とその依存オブジェクトが含まれている必要があります。したがって、ジョブを出力先システムに昇格する前に、ジョブに InfoObject を追加する必要があります。

ジョブに InfoObject を追加するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 新しいジョブを作成します。ジョブの新規作成については、25 ページの [「ジョブの新規作成」](#)を参照してください。
- 3 [オブジェクトの追加]をクリックします。
[オブジェクトの追加]画面が表示されます。ツリー構造でフォルダとサブフォルダが表示されます。
- 4 InfoObject を選択するフォルダに移動します。
選択したフォルダ内の InfoObject の一覧が表示されます。
- 5 ジョブに追加する InfoObject を選択し、[追加]をクリックします。
InfoObject を追加してから[オブジェクトの追加]画面を終了するには、[追加して閉じる]をクリックします。ジョブに InfoObject が追加され、[オブジェクトの追加]画面が終了します。

ジョブに InfoObject を追加したら、[ジョブビューア] ページを右クリックし、ジョブ関連プロセスを選択して昇格タスクを続行します。選択した InfoObject の依存関係を管理するには、[ジョブビューア]ページで[依存関係の管理]オプションを使用します。

注

- ・ [ジョブビューア] ページの左パネルに表示されるショッピングカートには、ジョブ名とフォルダ名が表示されます。オブジェクトを選択すると、選択したオブジェクトが属するフォルダが階層ツリー構造で明示されます。
- ・ InfoObject を追加したら、[保存]をクリックします。[保存]オプションをクリックしないでこのタブを閉じようとする、ジョブを保存するオプションを示すプロンプトが表示されます。

ベストプラクティス: SAP Business Objects では、ライフサイクルマネジメントコンソールツールの最適なパフォーマンスを引き出すために、選択する InfoObject の数を一度に 100 件未満となるように抑えることを推奨しています。

関連項目

- ・ 25 ページの[ジョブの新規作成](#)」
- ・ 28 ページの[ジョブの編集](#)」

5.6 依存オブジェクトの検索

ライフサイクルマネジメントコンソールの高度な検索機能では、リポジトリにある InfoObject の依存オブジェクトを検索することができます。

InfoObject の依存オブジェクトを検索するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 新しいジョブを作成するか、または既存のジョブを編集します。

新しいジョブを作成した場合には、そのジョブに InfoObject を追加します。既存のジョブを編集した場合には、必要に応じてそのジョブに InfoObject を追加します。

- 3 [依存関係の管理]をクリックします。
- 4 [依存オブジェクトの検索] フィールドに検索する依存オブジェクトの名前を入力します。
- 5 [検索] アイコンをクリックします。

関連項目

- ・ 30 ページの[ジョブの依存関係の管理](#)」

5.7 ジョブの依存関係の管理

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 環境では、InfoObject は他の InfoObject に依存しています。たとえば、Web 分析ドキュメントは、基になるユニバースの構造やコンテンツなどに依存しています。オブジェクトを昇格する場合は、昇格する依存オブジェクトを選択およびフィルタするか、すべての依存オブジェクトを別の SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムに昇格することを許可できます。InfoObject とともに昇格する依存オブジェクトを選択およびフィルタするには、[依存関係の管理]オプションを使用する必要があります。このオプションを使用しない場合には、依存オブジェクトはジョブとともに昇格されません。

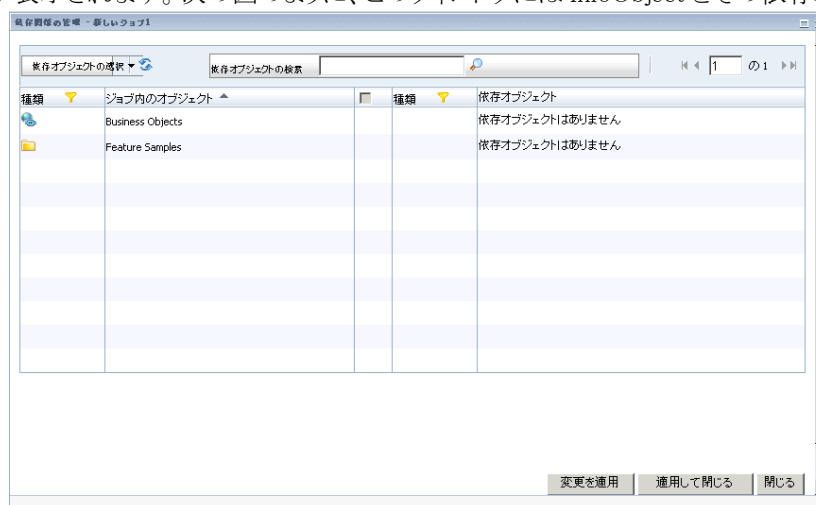
次の表では、依存オブジェクトの管理に使用できるオプションについて説明します。

依存オブジェクトのタイプ	説明
選択したレポートのユニバース	選択した InfoObject が依存するユニバースを昇格します。
選択したユニバース、ユニバース制限セット	他のユニバースおよびユニバース制限セットに依存するユニバースを昇格します。
選択したオブジェクトに設定されたアクセスレベル	選択した InfoObject で使用されるアクセスレベルを昇格します。
選択したユニバースで使用される接続	選択した InfoObject で使用されるユニバース接続オブジェクトを昇格します。
選択したレポートのビジネスビュー	選択した InfoObject が依存するビジネスビュー、ビジネスエレメント、データファンデーション、データ接続、および値の一覧(LoV)を昇格します。
選択したパブリケーションで使用されるイベント、カレンダー、プロファイル	選択したパブリケーションで使用されるイベント、カレンダー、ユーザプロファイルオブジェクトを昇格します。

InfoObject の依存関係を管理するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 新しいジョブを作成します。新しいジョブ作成に関する情報については、25 ページの「[ジョブの新規作成](#)」を参照してください。
- 3 必要な InfoObject を新しいジョブに追加します。
- 4 [昇格ジョブ] ホームページで[依存関係の管理]をクリックします。

[依存関係の管理]ウィンドウが表示されます。次の図のように、このウィンドウには InfoObject とその依存オ



ブジェクトの一覧が表示されます。

- 5 ジョブに依存オブジェクトを追加するのに利用できるオプションを[依存オブジェクトの選択]ドロップダウンリストから選択します。右側に依存オブジェクトが表示されます。依存オブジェクトがデフォルトで選択されることはないので、昇格する依存オブジェクトを明示的に選択する必要があります。


たとえば、[依存オブジェクトの選択]ドロップダウンリストから[すべてのユニバース]を選択すると、依存オブジェクトの一覧にあるすべてのユニバースが自動的に選択されます。

注

依存オブジェクトを手動で選択することもできます。

[依存オブジェクト]列から依存オブジェクトを選択すると、それらの依存オブジェクトが[ジョブ内のオブジェクト]列へ自動的に移動します。

[依存オブジェクトの検索] フィールドに依存オブジェクト名を入力して、依存オブジェクトを検索することもできます。依存オブジェクトの検索の詳細については、30 ページの「[依存オブジェクトの検索](#)」を参照してください。

- 6  をクリックして、ドロップダウンリストの InfoObject のサポートされているフィルタオプションを表示します。オプションを選択し、[OK]をクリックします。フィルタされた InfoObject が表示されます。
- 7 [変更を適用]をクリックして、依存オブジェクトの一覧を更新します。
- 8 [適用して閉じる] をクリックして、一覧を更新し、変更を保存します。

注

- ・ 依存オブジェクトは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールで自動的に計算されます。これらの依存オブジェクトは、InfoObject の関係または InfoObject のプロパティのいずれかに基づいて計算されます。
- ・ 昇格に使用するフォルダを選択すると、選択したフォルダのコンテンツはプライマリリソースであると見なされます。
- ・ [依存関係の管理]画面でスケジュールされた InfoObject にカーソルを置くと、ファイル名、ファイルパス、作成日時、最終更新日時、次回実行時、有効期限、所有者、および定期スケジュールを含むツールヒントが表示されます。

5.8 ジョブの昇格

このセクションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでサポートされている、ソースシステムから出力先システムにジョブを昇格するワークフローについて説明します。

- ・ リポジトリ (ソースシステムと出力先システム) が接続されている場合
- ・ リポジトリ (ソースシステムと出力先システム) が接続されていない場合

5.8.1 リポジトリに接続している時のジョブの昇格

このセクションでは、リポジトリに接続している場合にソースシステムから出力先システムをジョブを昇格する方法について説明します。

以下の表は、ライフサイクルマネジメントコンソールツールを使用して昇格できる InfoObject タイプの一覧です。

カテゴリ	昇格できるオブジェクトタイプ
レポート	Crystal レポート、Web 分析、Xcelsius、QaaWS、Explorer
サードパーティオブジェクト	リッチテキスト、テキストドキュメント、Microsoft Excel、Microsoft Power Point、Microsoft Word、Flash、Adobe Acrobat
ユーザ	ユーザとユーザグループ
サーバ	サーバグループ
BI プラットフォーム	フォルダ、プログラム、イベント、プロファイル、オブジェクトパッケージ、ハイパーリンク、カテゴリ、アラート
ユニバース、ワークスペース	ユニバース UNV、接続
EPM ダッシュボード	ユニバース、接続、レポート、ダッシュボード、およびアナリティクス
BusinessView	DataFoundation
フェデレーション ・ レプリケーション一覧 ・ レプリケーションジョブ	レプリケーション一覧では、Flash、.txt、ディスカッション、Xcelsius、.pdf、ハイパーリンク、.xls、オブジェクトパッケージ、Crystal レポート、Web 分析ドキュメント、ユニバース、プログラム、接続、DataFoundation、ビジネスビュー、.rtf、プロファイル、イベント、ユーザ、およびユーザグループの各オブジェクトを昇格します。レプリケーション接続は、レプリケーションジョブ、リモート接続、パブリケーション、ディスカッション、Pioneer 接続を昇格します。
BI サービス	Web 分析ドキュメント、ユニバース、および接続
新しい InfoObject	Crystal レポート (rpt/rptr)、Pioneer、Dashboard Design、DSL Universe (UNX)、WEBI、エクスプローラ

ジョブを昇格するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
[昇格ジョブ] ホームページが表示されます。
 - 2 次の操作を実行できます。
 - ・ 昇格するジョブを右クリックし、[昇格] を選択します。
 - ・ 昇格するジョブを選択し、[昇格] タブをクリックします。
 [昇格] ウィンドウが表示されます。
 - 3 [ソース] および [出力先] ドロップダウンリストから、それぞれソースシステムおよび出力先システムを選択します。
- 注**
昇格処理を始める前に、ソースシステムと出力先システムの両方にログインしておきます。
- 4 [管理 ID の変更] フィールドに適切な値を入力し、[保存] をクリックします。

注

[外部変更管理 ID] は、ログイン、監査、ジョブ履歴などに関する情報を取得するために使用されます。ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、管理 ID での変更に対して、ジョブ作成の各インスタンスをマップすることができます。管理 ID は、新しいジョブを作成する時にジョブの定義でユーザが設定する属性です。ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、各ジョブの ID が自動的に生成されます。

- 5 必要であれば[セキュリティ設定]をクリックします。次のオプションが表示されます。
 - ・ セキュリティを昇格しない: これはデフォルトオプションです。
 - ・ セキュリティを昇格: ジョブと関連セキュリティ権限を昇格するには、このオプションを使用します。
 - ・ アプリケーションの権限を含める: このオプションは[セキュリティを昇格]を選択した場合にのみ有効になります。ジョブに含まれているオブジェクトがアプリケーションの権限を継承する場合には、ジョブとともにそれらの権限が昇格されます。

[セキュリティを表示]をクリックして、ジョブに含まれている InfoObject のセキュリティ依存関係を表示することもできます。

- 6 [昇格をテスト]をクリックして、ソースシステムと出力先システムの間で CUID が競合していないことを確認します。昇格の詳細が表示されます。最初の列には昇格対象オブジェクトが表示されます。2 番目の列には昇格ステータスが表示されます。ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、選択したオブジェクトがユーザ、グループ、ユニバースなどに分類されます。

注

昇格テスト機能を実行しても、対象の InfoObject が実際に昇格されることはありません。

昇格テストの結果は次のいずれかになります。

- ・ 上書き: 出力先の InfoObject がソースシステムの InfoObject によって上書きされます。
- ・ コピー: ソースシステムの InfoObject が出力先システムにコピーされます。
- ・ 中断: InfoObject はソースシステムから出力先システムに昇格されません。
- ・ 警告: 出力先システムの InfoObject の方が新しいバージョンであり、ジョブから InfoObject を削除できます。ただし、InfoObject を昇格することもできます。

- 7 ジョブの昇格をスケジュールするには、[ジョブをスケジュール]をクリックします。

- 8 [昇格]をクリックします。

スケジュールされたジョブが昇格されます。

注

ジョブを昇格しない場合には、[保存]オプションを使用して、セキュリティ、変更管理 ID、スケジュール設定などの変更を保存できます。

関連項目

- ・ 38 ページの[ジョブの昇格のスケジュール](#)
- ・ 8 ページの[セキュリティ](#)

5.8.2 リポジトリに接続していない場合のジョブの昇格

昇格とは、リポジトリ間で BI リソースを移動させるアクティビティです。ソースシステムと出力先システムが接続されている場合には、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは WAN または LAN を使用して InfoObject を昇格します。ただし、ライフサイクルマネジメントコンソールでは、ソースシステムと出力先システムが接続されていない場合でも、InfoObject を昇格することもできます。ソースシステムと出力先システムが接続されていないシナリオでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでソースシステムから BIAR ファイルにジョブをエクスポートしてから、そのジョブを BIAR ファイルから出力先システムにインポートすることにより、ジョブを出力先システムに昇格することができます。

このセクションでは、BIAR ファイルにジョブをエクスポートしてから、そのジョブを BIAR ファイルから出力先システムにインポートする方法について説明します。

注

ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、インポートウィザードツールで作成された BIAR ファイルを使用することはできません。

5.8.2.1 BIAR ファイルへのジョブのエクスポート

このセクションでは、BIAR ファイルへジョブをエクスポートする方法について説明します。

BIAR ファイルへジョブをエクスポートするには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインし、ジョブを新規作成します。
ジョブの新規作成の詳細については、25 ページの [「ジョブの新規作成」](#) を参照してください。
- 2 [出力先] ドロップダウンリストから [LCMBIAR ファイルに出力] オプションを選択し、[作成] をクリックします。

ソース*: ▼

出力先: ▼

- 3 [オブジェクトの追加] をクリックして InfoObject をジョブに追加します。
選択したジョブの依存を管理するには、[依存関係の管理] オプションを使用します。
- 4 [昇格] をクリックします。
[昇格] ウィンドウが表示されます。
- 5 必要に応じてオプションを変更し、[エクスポート] をクリックします。
BIAR ファイルが作成されます。BIAR ファイルをファイルシステムまたは FTP の場所に保存できます。
- 6 [出力先] ドロップダウンリストから [LCMBIAR ファイルに出力] を選択し、[LCMBIAR ファイルの出力先] をクリックします。
[LCMBiar ファイルの出力先] ペインが表示されます。

- 7 以下のいずれかのステップを実行します。
 - ・ [ファイルシステム] を選択します。
 - ・ [FTP] を選択し、[ホスト]、[ポート]、[ユーザ名]、[パスワード]、[ディレクトリ]、および [ファイル名] の各フィールドに適切な詳細情報を入力します。
- 8 パスワードを使用して LCMBIAR ファイルを暗号化するには、[パスワード暗号化] チェックボックスをクリックします。
- 9 [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
- 10 [パスワードの確認] フィールドにパスワードを再入力します。
- 11 [エクスポート] をクリックします。
ステップ 7 で選択したオプションに応じて、BIAR ファイルが、ファイルシステムまたは FTP にエクスポートされます。

関連項目

- ・ 29 ページの [ジョブへの InfoObject の追加](#)」
- ・ 30 ページの [ジョブの依存関係の管理](#)」

5.8.2.2 BIAR ファイルからのジョブのインポート

BIAR ファイルを保存デバイスから出力先システムにコピーします。

BIAR ファイルをインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
 - 2 [昇格ジョブ] ホームページで [LCMBIAR のインポート] をクリックします。
[LCMBIAR ファイルのインポート] ウィンドウが表示されます。
 - 3 [参照] をクリックし、ファイルシステムから BIAR ファイルを選択します。
 - 4 [パスワード] フィールドに LCMBIAR ファイルのパスワードを入力します。
- 注**
[パスワード] フィールドは、LCMBIAR ファイルがパスワードで暗号化されている場合のみ表示されます。
- 5 [作成] をクリックします。
ジョブが作成されます。
 - 6 [参照] をクリックして、ジョブを保存するフォルダを選択し、[作成] をクリックします。
[依存関係の管理] ウィンドウで、ジョブの依存を管理することもできます。
 - 7 [昇格] をクリックします。
[昇格 - ジョブ名] ウィンドウが表示されます。
 - 8 [出力先] ドロップダウンリストから、出力先システムを選択します。[新しい CMS へのログイン] を選択すると、認証情報が要求されます。出力先システムのログイン認証情報を確認します。
 - 9 [昇格] をクリックし、出力先システムにコンテンツを昇格します。

[昇格をテスト]オプションをクリックして、昇格するオブジェクトと昇格のステータスを表示できます。

5.9 ライフサイクルマネジメントコンソールでのジョブのスケジュール

ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、ジョブの作成直後にジョブを昇格するのではなく、ジョブを昇格する時期を指定することができます。ジョブの昇格を一定の間隔でスケジュールすることもできます。この機能は、サーバへの負荷が最も少ない時に大量のジョブを昇格するのに役立ちます。

ジョブの昇格をスケジュールするには、将来の時間を指定するか、あるいは定期的なスケジュールパターンを選択し、追加パラメータを指定します。

以下の表では、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでサポートされているジョブ昇格の定期的なスケジュールパターンについて説明します。

定期的なスケジュールパターン	説明
今すぐ	このオプションを選択すると、[スケジュール]をクリックした直後にジョブが実行されます。
1 回	このオプションを選択すると、ジョブは1度だけ実行されます。ジョブは即時、指定した将来の日時、または特定のイベントが発生した時に実行できます。
時間単位	このオプションを選択すると、ジョブは1時間ごとに実行されます。開始時刻、開始日、終了日を指定できます。
日単位	このオプションを選択すると、ジョブは毎日実行されます。1日に1回または複数回実行できます。ジョブを実行する必要がある時刻、開始日、終了日を指定できます。
週単位	このオプションを選択すると、ジョブは毎週実行されます。1週間に1回または複数回実行できます。ジョブを実行する必要がある曜日、時刻、開始日、終了日を指定できます。
月単位	このオプションを選択すると、ジョブは月に1回または複数回実行されます。ジョブを実行する必要がある日時、開始日、終了日を指定できます。

実行オプション

次の表では、ジョブの昇格をスケジュールする時に指定できるパラメータについて説明します。

実行オプション	説明
X 変数と N 変数	X 変数と N 変数は定期的なスケジュールパターン [毎日] と [毎月] の両方に適用できます。これらの変数を含む実行オプションを選択すると、それらのデフォルト値がシステムで表示されます。ただし、必要に応じてそれらの値を変更することができます。たとえば、定期的なスケジュールパターン [毎日] と、[N 時間 X 分ごと] に実行するオプションを選択すると、4(X)時間 30(N)分ごとにレポートが実行されるようにスケジュールできます。X または N の値を変更しない場合は、レポートは 1 時間ごとに実行されます。
実行日	このオプションは、定期的なスケジュールパターン [毎週] を選択すると表示されます。適切な曜日のチェックボックスのチェックをはずして、ジョブを実行する曜日を選択できます。
開始時刻	ほとんどの場合に適用されますが、一部適用されない定期スケジュールパターンと実行オプションがあります。デフォルトは、現在の日時です。開始時刻を過ぎると、指定されたスケジュールに従って可能な限り早くジョブが実行されます。たとえば、開始日を 3 カ月後に指定すると、他のすべての基準が満たされた場合でも、その開始日を過ぎるまでジョブは実行されません。開始時刻を過ぎると、指定された時刻にレポートが実行されません。
終了時刻	デフォルトは遠い将来における現在の時刻と日付で、それまでは無制限にオブジェクトが実行されます。必要であれば別の終了時刻を指定します。終了時刻を過ぎると、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、ジョブは実行されません。
可能な再試行回数	最初の試行が失敗した場合にジョブ処理を試行する回数です。すべてのケースに適用できます。デフォルトでは、この数は 0 です。
再試行間隔(秒単位)	最初の試行が失敗した場合にジョブ処理を再試行するまでの待機間隔(秒単位)です。すべてのケースに適用できます。

5.9.1 ジョブの昇格のスケジュール

このセクションでは、ジョブの昇格をスケジュールする方法について説明します。繰り返しオプションとパラメータを指定する方法についても説明します。

ジョブの昇格をスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1 [昇格 - ジョブ名] ウィンドウで [ジョブをスケジュール] オプションをクリックします。

ジョブをスケジュール

ジョブインスタンスのタイトル: 新しいジョブ1

ジョブを実行: 週単位

可能な再試行回数: 0

再試行間隔 (秒単位): 1800

オブジェクトを毎週次の日に実行する。

☐ 月曜日 ☐ 金曜日

☐ 火曜日 ☐ 土曜日

☐ 水曜日 ☐ 日曜日

☐ 木曜日

開始日/時間: 07 02 PM 5/7/2010

終了日/時間: 07 03 PM 5/7/2010

- 2 [ジョブを実行] ドロップダウンリストから適切なスケジュールオプションを選択します。

選択した [ジョブを実行] オプションに基づいて、[オブジェクトを実行する] フィールドに表示される値が自動的に変更されます。たとえば、[週単位] オプションを選択する場合には、優先日数も指定する必要があります。

- 3 選択したスケジュールのパラメータを指定します。

[可能な再試行回数] フィールドには可能な再試行回数、[再試行間隔(秒単位)] フィールドには連続して再試行する時間の間隔も指定します。

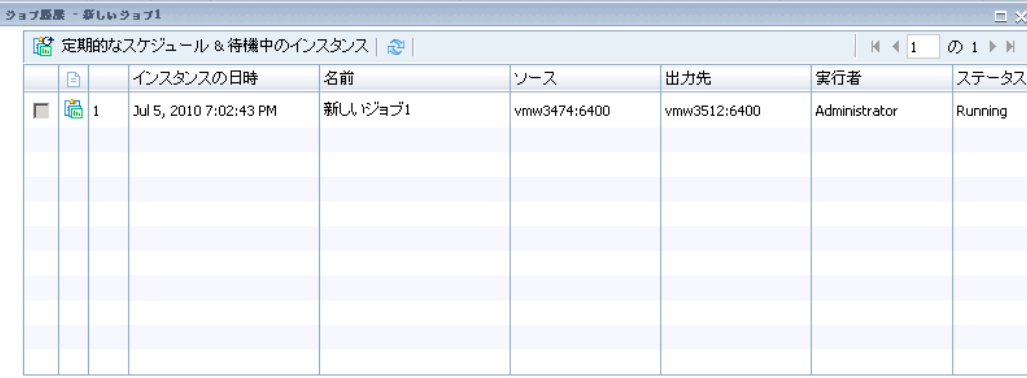
- 4 [保存] をクリックします。

5.9.2 定期および一時停止中のジョブ昇格インスタンスの更新

ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、[定期的スケジュールのジョブ履歴および待機中のインスタンス] オプションを使用して、スケジュールされているジョブインスタンスの昇格のステータスを追跡および更新できます。

スケジュールされているジョブの昇格インスタンスを追跡および更新するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 [昇格ジョブ]ホームページでジョブを選択します。
- 3 [履歴] をクリックします。
[ジョブ履歴]ウィンドウが表示されます。
- 4 [定期および一時停止中のインスタンス]をクリックします。
次の図のように、[ジョブ履歴]ウィンドウが表示されます。






The screenshot shows a window titled 'ジョブ履歴 - 新しいジョブ1'. It contains a table with the following data:

定期的なスケジュール & 待機中のインスタンス	インスタンスの日時	名前	ソース	出力先	実行者	ステータス
1	Jul 5, 2010 7:02:43 PM	新しいジョブ1	vmw3474:6400	vmw3512:6400	Administrator	Running

このウィンドウには、定期および一時停止中のジョブの昇格インスタンスが表示されます。

必要に応じて、次のオプションを使用できます。

- ・ スケジュールされたジョブの昇格インスタンスを表示するには、[昇格されたインスタンス]をクリックします。
- ・ スケジュールされたジョブの昇格を一時停止するには、[一時停止]オプションをクリックします。
- ・ スケジュールされたジョブの昇格インスタンスの一時停止を解除するには、[再開]オプションをクリックします。
- ・ ジョブの昇格インスタンスを再スケジュールするには、[再スケジュール]オプションをクリックします。
- ・ スケジュールされたジョブの昇格インスタンスを削除するには、 アイコンをクリックします。
- ・ スケジュールされたジョブの昇格インスタンスのステータスを最新表示するには、 アイコンをクリックします。
- ・  オプションを使用して 1 ページずつ移動するか、あるいは該当するページ番号を入力して特定のページに移動できます。

注

[定期および一時停止中のインスタンスのジョブ履歴]ウィンドウの[ステータス]列には、定期や一時停止中といったジョブインスタンスの昇格のステータスが表示されます。

5.10 ジョブ履歴の表示

ライフサイクルマネジメントツールを使用して、ジョブ昇格インスタンスのステータスを表示および追跡することができます。

注

ジョブ履歴を表示するには、ジョブが次のいずれかのステータスであることを確認する必要があります。

- ・ 成功
- ・ 失敗
- ・ 一部成功

ジョブ履歴を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。

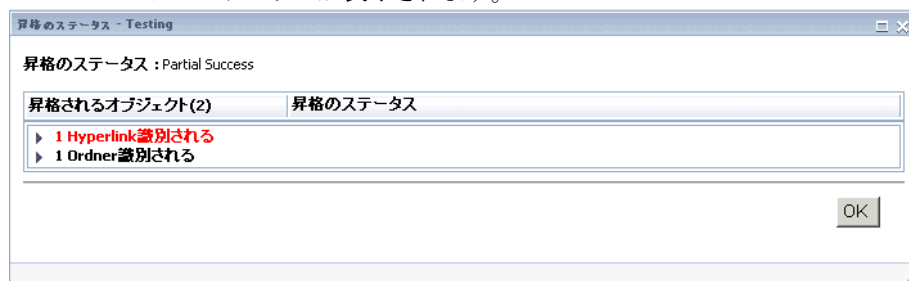
[昇格] ホームページが表示されます。

- 2 次の操作を実行できます。

- ・ 履歴を表示するジョブを右クリックし、[履歴] をクリックします。
- ・ 履歴を表示するジョブを選択し、[履歴] タブをクリックします。

ジョブのインスタンス、ジョブ名、ソースシステム名、出力先システム名、ジョブを昇格させたユーザの ID、およびジョブのステータス(成功、失敗、または一部成功)が表示されます。

[ステータス]列に表示されているリンクを使用して、ジョブのステータスを表示できます。次の図のように、ジョブのステータスが表示されます。



5.10.1 ジョブのロールバック

[ロールバック] オプションでは、ジョブの昇格後に出力先システムを以前の状態に戻すことができます。

ジョブをロールバックするには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。

[昇格] ホームページが表示されます。

- 2 次の操作を実行できます。

- ・ ロールバックするジョブを右クリックし、[ロールバック] を選択します。
- ・ ロールバックするジョブを選択し、[ロールバック] タブをクリックします。

[ロールバック] ウィンドウが表示されます。

- 3 ロールバックするジョブを選択し、[完全ロールバック] をクリックします。

ジョブがロールバックされます。

注

ジョブの昇格の最新インスタンスのみをロールバックできます。2 つのジョブインスタンスを同時にロールバックすることはできません。

5.10.1.1 [一部ロールバック]オプションの使用

ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、ジョブに含まれている InfoObject をロールバックすることができます。ジョブに含まれている InfoObject の一部またはすべてをロールバックできます。

ジョブに含まれている InfoObject をロールバックするには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
[昇格] ホームページが表示されます。
- 2 次の操作を実行できます。
 - ・ ロールバックするジョブを右クリックし、[ロールバック] を選択します。
 - ・ ロールバックするジョブを選択し、[ロールバック] タブをクリックします。[ロールバック] ウィンドウが表示されます。
- 3 一覧の最上部のジョブを選択し、[一部ロールバック] をクリックします。
[ジョブビューア] ページには、選択したジョブの InfoObject 一覧が表示されます。
- 4 ロールバックする InfoObject を選択し、[ロールバック] をクリックします。

注

次のジョブ、または次のジョブの InfoObject をロールバックする前に、ジョブに含まれている InfoObject をすべてロールバックしておく必要があります。

重要: セキュリティとともに昇格されたジョブの場合、InfoObject を一部ロールバックすると、選択した依存 InfoObject のセキュリティが以前の状態にロールバックされないことがあります。

5.10.1.2 パスワード期限切れ後のジョブのロールバック

このセクションでは、ソースシステムまたは出力先システムのパスワードの期限切れ後にジョブをロールバックする方法について説明します。

パスワードの期限切れ後にジョブをロールバックするには、次の手順に従います。

- 1 ロールバックするジョブを選択し、[ロールバック] をクリックします。
[ロールバック] ページが表示されます。
- 2 必要なジョブインスタンスを選択し、[完全ロールバック] をクリックします。

エラーメッセージが表示されます。このメッセージは、ジョブをロールバックできないことを知らせるものです。ソースシステムまたは出力先システムへのログインも求められます。

- 3 ログイン認証情報を入力し、[ログイン] をクリックします。

ロールバック処理が完了したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。

ソースシステムまたは出力先システムの認証情報を使用して昇格されたジョブが自動的に更新されます。

関連項目

- ・ 42 ページの [\[一部ロールバック\]オプションの使用](#)」
- ・ 43 ページの [パスワード期限切れ後の InfoObject のロールバック](#)」

5.10.1.3 パスワード期限切れ後の InfoObject のロールバック

このセクションでは、ソースシステムまたは出力先システムのパスワードの期限切れ後に InfoObject をロールバックする方法について説明します。

パスワードの期限切れ後に InfoObject をロールバックするには、次の手順に従います。

- 1 ロールバックするジョブを選択し、[ロールバック]をクリックします。
[ロールバック]ページが表示されます。
- 2 ロールバックするジョブを選択し、[一部ロールバック] をクリックします。
エラーメッセージが表示されます。このメッセージは、InfoObject をロールバックできないことを知らせるものです。ソースシステムまたは出力先システムへのログインも求められます。
- 3 ログイン認証情報を入力し、[ログイン] をクリックします。
[ジョブビューア]ページが表示されます。このページには InfoObject の一覧が表示されます。
- 4 必要な InfoObject を選択し、[ロールバック]をクリックします。

ソースシステムまたは出力先システムの認証情報を使用して昇格されたジョブが自動的に更新されます。

InfoObject のさまざまなバージョンの管理


ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform リポジトリに存在する BI リソースのさまざまなバージョンを管理することができます。LifeCycle Manager ツールは、SubVersion と ClearCase の両方のバージョン管理システムに対応しています。このセクションでは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールのバージョン管理機能の使用方法について説明します。

InfoObject のさまざまなバージョンを作成および管理するには、次の手順に従います。

- 1 ライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインします。
- 2 ライフサイクルマネジメントコンソールのホームページで、ドロップダウンリストから [バージョン管理] を選択します。
[システムにログイン]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ログイン認証情報を入力し、[ログイン]をクリックします。
[バージョン管理]ウィンドウが表示されます。

注


バージョン管理システム (VMS) には、バージョン管理システムの設定が済んでいる場合に限りログインできます。

- 4 ホストシステムを変更するには、 をクリックします。
[システムにログイン]ダイアログボックスが表示されます。
- 5 ユーザ認証情報を入力し、[ログイン]をクリックします。
- 6 [バージョン管理]ウィンドウの左パネルからフォルダを選択し、バージョンを管理する InfoObject を表示します。
- 7 InfoObject を選択し、[VM に追加]をクリックします。

注

[バージョン管理に追加]をクリックすると、VMS リポジトリにオブジェクトのベースバージョンが作成されます。ベースバージョンは次のチェックインに必要になります。

- 8 [チェックイン]をクリックして、VMS リポジトリに存在するドキュメントを更新します。
[チェックインコメント]ダイアログボックスが表示されます。
- 9 コメントを入力し、[OK]をクリックします。
[VMS]列と[コンテンツ管理システム]列には、選択した InfoObject のバージョン番号の変更が表示されます。
- 10 VMS からドキュメントの最新バージョンを取得するには、必要な InfoObject を選択し、[最新バージョンを取得]をクリックします。
- 11 最新バージョンのコピーを作成するには、[コピーの作成]をクリックします。
選択したバージョンのコピーが作成されます。

- 12 [履歴]を選択し、選択したリソースの使用可能なすべてのバージョンを表示します。
[履歴]ウィンドウが表示されます。次のオプションが表示されます。
- ・ バージョンを取得: 複数のバージョンが存在し、BI リソースの特定のバージョンを必要としている場合には、必要なリソースを選択し、[バージョンを取得]をクリックします。
 - ・ バージョンのコピーを取得: このオプションでは、選択したバージョンのコピーを取得できます。
 - ・ バージョンのコピーをエクスポート: このオプションでは、選択したバージョンのコピーを取得し、ローカルシステムに保存できます。
- 13 InfoObject をロックするには、InfoObject を選択して[ロック]をクリックします。InfoObject のロックを解除するには、[ロック解除]をクリックします。
- 注**
InfoObject をロックすると、InfoObject に対してアクションを実行することはできません。
- 14 CMS と VMS の同期: InfoObject の CMS バージョンが更新されると、更新された InfoObject の横にインジケータが表示されます。そのインジケータにカーソルを合わせると、CMS の InfoObject が更新されたことを示すツールヒントが表示されます。
- 15 CMS ではなく VMS に存在するチェックイン済みのすべてのリソースの一覧を表示するには、[削除したリソースを表示]をクリックします。
削除したリソースをクリックし、そのリソースの履歴を表示します。削除したリソースを選択し、[バージョンを取得]をクリックすると、リソースの特定バージョンを表示できます。[バージョンのコピーを取得]をクリックすると、選択したリソースのコピーを取得できます。
- 注**
[バージョンを取得]または[バージョンのコピーを取得]オプションのいずれかを使用すると、リソースは VMS の見つからないファイル一覧から CMS に移動されます。
- 16 リソースを選択してから  をクリックし、リソースのプロパティを表示します。
または、InfoObject を右クリックして、手順 4 ～ 16 を実行することができます。

6.1 サブバージョンファイルのバックアップと復元

この節では、サブバージョンファイルのバックアップと復元を実行するための推奨手順について説明します。バックアップおよび復元計画は、自然災害または大惨事によるシステム障害が発生したときに備えて実行される予防措置で構成されます。

6.1.1 サブバージョンファイルのバックアップ

サブバージョンファイルをバックアップするには、次の手順を完了します。

- 1 <InstallDIR>\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise 4.0\CheckOut に移動します。

- 2 CheckOut フォルダをコピーして、任意のバックアップデバイスに保存します。
- 3 LCM_Repository 全体をコピーして、任意のバックアップデバイスに保存します。

6.1.2 サブバージョンファイルの復元

サブバージョンファイルを復元するには、次の手順を完了します。

- 1 以前バックアップを行った場所から CheckOut フォルダを復元します。

注

[LCM] > [管理オプション] > [VMS 設定] > [サブバージョン] で、[ワークスペースディレクトリ] フィールドに適切なチェックアウトパスが入力されていることを確認します。

- 2 以前バックアップを行った場所から LCM_Repository を復元します。

注

[LCM] > [管理オプション] > [VMS 設定] > [サブバージョン] で、[インストールパス] フィールドに適切なチェックアウトパスが入力されていることを確認します。

コマンドラインオプションの使用

ライフサイクルマネジメントコンソールツールのコマンドラインオプションを使用すると、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムからコマンドラインの入力を介して、別の SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムにオブジェクトを昇格できます。

ライフサイクルマネジメントコンソールツールでは、コマンドラインオプションを介して次のジョブの昇格がサポートされています。

- ・ パスワード暗号化を使用した既存の LCM ジョブテンプレートの LCMBIAR へのエクスポート
- ・ パスワード暗号化を使用しない既存の LCM ジョブテンプレートの LCMBIAR へのエクスポート
- ・ 既存のジョブテンプレートを使用した昇格
- ・ 既存の LCMBIAR のインポートおよび昇格
- ・ 単独/複数のプラットフォームのクエリのエクスポート
- ・ 複数のプラットフォームクエリの昇格

7.1 Windows でのコマンドラインオプションの実行

コマンドラインツールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 コマンドラインウィンドウを開きます。
- 2 適切なディレクトリに移動します。

例: C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise 4.0\java\lib

- 3 次のいずれかの操作を行います。

- ・ LCMCLI を実行し、プログラムの実行前に Java のパスが設定されていることを確認します。

コマンド: java -cp "lcm.jar" com.businessobjects.lcm.cli.LCMCLI <プロパティファイル>

- ・ C:\Program Files (x86)\SAP Business Objects\SAP BusinessObjects Enterprise 4.0\win64_x64\scripts\lcm_cli.bat から BAT ファイルを実行します。

コマンド: lcm_cli.bat -lcmproperty <プロパティファイル>

注

ライフサイクルマネジメントコンソールコマンドラインツールでは、properties ファイルをパラメータとして取得します。properties ファイルには、実行するアクションに関するライフサイクルマネジメントコンソールコマンドラインツールと通信するために必要なパラメータ、接続先の SAP BusinessObjects Business Intelligence platform デプロイメント、接続メソッド、昇格するオブジェクトなどが含まれています。

ファイルは、〈ファイル名〉.properties の形式で書かれている必要があります。

例: Myproperties.properties

7.1.1 UNIX でのコマンドラインオプションの実行

コマンドラインツールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 シェルを起動します。
- 2 適切なディレクトリに移動します。
例: /usr/u/qaunix/Aurora604/sap_bobj/enterprise_40/java/lib
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・ LCMCLI を実行し、プログラムの実行前に Java のパスが設定されていることを確認します。
コマンド: java -cp "lcm.jar" com.businessobjects.lcm.cli.LCMCLI 〈プロパティファイル〉
 - ・ 〈インストールディレクトリパス〉¥sap_bobj¥lcm_cli.sh から BAT ファイルを実行します。
コマンド: lcm_cli.sh -lcmproperty 〈プロパティファイル〉

7.2 コマンドラインオプションのパラメータ

次の表に、ライフサイクルマネジメントコンソールツールのコマンドラインオプションのパラメータと、指定可能な値を示します。

パラメータ	指定可能な値	説明	必須またはオプション
action	Export、Promote 例: action=export	このオプションでは、CLIで実行する必要がある操作を指定できます。この操作では、次の操作を実行できます。 ・ オブジェクトを、LCMBIAR ファイルまたはライフサイクルマネジメントコンソールジョブから SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムに昇格します。 ・ オブジェクトを SAP BusinessObjects Enterprise システムから LCMBIAR ファイルにエクスポートします。	必須
exportLocation	自由形式のテキスト。拡張子 .lcmbar を付ける必要があります。 例: exportLocation=C:/Backup/New.lcmbar	このパラメータでは、オブジェクトがエクスポートされてパッケージ化された後に LCMBIAR ファイルを配置する場所を指定できます。	action=export の場合は必須
importLocation	自由形式のテキスト。拡張子 .lcmbar を付ける必要があります。 例: importLocation=C:/Backup/New.lcmbar	このパラメータでは、昇格されるオブジェクトを含む LCMBIAR ファイルの場所を指定できます。	action=promote の場合は必須
LCM_CMS	自由形式のテキスト。 例: LCM_CMS=<CMS 名:ポート番号>	このパラメータでは、ライフサイクルマネジメントコンソールが接続する CMC を指定できます。	action=promote または export の場合は必須

パラメータ	指定可能な値	説明	必須またはオプション
LCM_userName	自由形式のテキスト。 例: LCM_userName=<ユーザ名>	このパラメータでは、ツールがライフサイクルマネジメントコンソール CMS に接続する際に使用する必要があるアカウントのユーザ名を指定できます。 注 委任管理者がサポートされています。	action=promote または export の場合は必須
LCM_password	自由形式のテキスト。 例: LCM_password=<パスワード>	このパラメータでは、ユーザアカウントのパスワードを指定できます。	action=promote または export の場合は必須
LCM_authentication	secEnterprise、secWinAD、secLDAP、secSAPR3 例: LCM_authentication=<認証>	このパラメータは、使用される認証の種類を示します。	オプション。認証の種類を指定しない場合は、secEnterprise が使用されます。
LCM_systemID	システム ID 例: LCM_systemID=<システム ID>	このパラメータは SAP 認証に使用されます。	SAP 認証の場合は必須
LCM_clientID	クライアント ID 例: LCM_clientID=<クライアント ID>	このパラメータは SAP 認証に使用されます。	SAP 認証の場合は必須
Source_CMS	自由形式のテキスト。 例: Source_CMS=<CMS 名:ポート番号>	このパラメータでは、ライフサイクルマネジメントコンソールが接続する必要がある CMC を指定できます。	action=export の場合は必須

パラメータ	指定可能な値	説明	必須またはオプション
Source_userName	自由形式のテキスト。 例: Source_username=<ユーザ名>	このパラメータでは、ツールが BI プラットフォーム CMS に接続する際に使用する必要があるユーザアカウントを指定します。 注 委任管理者がサポートされています。	action=export の場合は必須
Source_password	自由形式のテキスト。 例: Source_password=<パスワード>	このパラメータでは、関連するユーザアカウントのパスワードを指定します。	action=export の場合は必須
Source_authentication	secEnterprise、secWinAD、secLDAP、secSAPR3 例: Source_authentication=<認証>	このパラメータは、使用される認証の種類を示します。	オプション。認証の種類を指定しない場合は、secEnterprise が使用されます。
Source_systemID	SAP システム ID 例: Source_systemID=<システム ID>	このパラメータは SAP 認証用にのみ使用されます。	SAP 認証の場合は必須
Source_clientID	SAP クライアント ID 例: Source_clientID=<クライアント ID>	このパラメータは SAP 認証用にのみ使用されます。	SAP 認証の場合は必須
Destination_userName	自由形式のテキスト。 例: Destination_username=<ユーザ名>	このパラメータでは、ツールが BI プラットフォーム CMS に接続する際に使用する必要があるユーザアカウントを指定します。 注 委任管理者がサポートされています。	action=promote の場合は必須

パラメータ	指定可能な値	説明	必須またはオプション
Destination_password	自由形式のテキスト。 例: Destination_password=<パスワード>	このパラメータでは、関連するユーザアカウントのパスワードを指定します。	action=promote の場合は必須
Destination_authentication	secEnterprise、secWinAD、secLDAP、secSAPR3 例: Destination_authentication=<認証>	このパラメータは、使用される認証の種類を示します。	オプション。認証の種類を指定しない場合は、secEnterprise が使用されます。
Destination_systemID	システム ID 例: Destination_systemID=<システム ID>	このパラメータは SAP 認証用にものみ使用されます。	SAP 認証の場合は必須
Destination_clientID	クライアント ID 例: Destination_clientID=<クライアント ID>	このパラメータは SAP 認証用にものみ使用されます。	SAP 認証の場合は必須
includeSecurity	false、true 例: includeSecurity=<true または false>	このパラメータでは、選択したオブジェクトおよびユーザに関連付けられたセキュリティをエクスポートまたはインポートするようにツールに指示します。アクセスレベルが使用されている場合は、アクセスレベルもエクスポートまたはインポートされます。	オプション。指定しない場合は、デフォルトの false が使用されます。 action=promote または export の場合に使用されます。
JOB_CUID	保存された LCM ジョブの CUID	このパラメータでは、ジョブ内のすべてのオブジェクトを LCMBIAR ファイルにエクスポートするようにツールに指示します。	オプション。action=export または promote の場合に使用されます。

パラメータ	指定可能な値	説明	必須またはオプション
exportQuery	<p>自由形式のテキスト。CMS クエリ言語形式を使用します。</p> <p>例: exportQuery1=select*from ci_infoobjects where si_name='Xtreme Employees' and si_kind='Webi'</p> <p>注 1 つのプロパティファイルに任意の数のクエリを設定できますが、クエリには、exportQuery1、exportQuery2 などの名前を付ける必要があります。</p>	<p>エクスポート対象のオブジェクトを収集するためにツールで実行するクエリです。</p>	<p>オプション。 action=export の場合に使用されます。</p>
exportQueriesTotal	<p>正の整数。exportQueriesTotal=<整数></p>	<p>このパラメータでは、実行するエクスポートクエリの数を指定できます。x 個のエクスポートクエリがあり、それらをすべて実行する場合は、このパラメータ値に x を指定する必要があります。</p>	<p>オプション。 action=export の場合に使用されます。</p> <p>指定しない場合は、デフォルトの 1 が使用されます。</p>
stacktrace	<p>true または false</p> <p>例: stacktrace=<true または false></p>	<p>このパラメータにより、すべての呼び出しを追跡できます。</p>	<p>オプション。 指定しない場合は、デフォルトの false が使用されます。</p>

パラメータ	指定可能な値	説明	必須またはオプション
lcmbiarpassword	自由形式のテキスト。 例: java -jar upgradeManagementTool.jar -mode livetobiar -biarfile "C:¥TEMP¥abc.biar" -lcmbiarpassword "testpassword"	このパラメータでは、パスワードを使用して、BIAR ファイルの暗号化と解読が行えます。	オプション。 指定しない場合、または文字列が空の場合、暗号化されないことを意味します。
lcmproperty	プロパティファイルが保存されている場所の完全パス。 lcm_cli.bat -lcmproperty <プロパティファイルのファイルパス>	このパラメータは、ファイルに保存されているコマンドの実行に必要な値を参照します。	必須
consolelog	true または false	このパラメータは、コマンドログ内のユーザが実行したコマンドの完全なログを表示するために使用されます。	オプション

注

- ・ コマンドラインオプションでは、エクスポート前にジョブが作成されると同様に、その場で一時ジョブが作成されます。作成されるジョブ名は、Query_<ユーザ>_<タイムスタンプ> の組み合わせで設定されます。これは exportQuery にのみ適用されます。
- ・ LCMBIAR ファイル名が exportLocation ファイルに指定されていない場合、エクスポートされた LCMBIAR ファイルの命名規則は、<ジョブ名>_<タイムスタンプ>.lcmbiar という一意の組み合わせになります。
- ・ ジョブは、ライフサイクルマネジメントコンソールツールからのみロールバックできます。ジョブをロールバックするためのコマンドラインはサポートされていません。

7.3 サンプルプロパティファイル

以下は、サンプルプロパティファイルの例です。

例

```
importLocation=C:/Backup/CR.lcmbiar  
action=promote  
LCM_CMS=<CMS 名:ポート番号>  
LCM_userName=<ユーザ名>  
LCM_password=<パスワード>  
LCM_authentication=<認証>  
LCM_systemID=<ID>  
LCM_clientID=<クライアント ID>  
Destination_CMS=<CMS 名:ポート番号>  
Destination_userName=<ユーザ名>  
Destination_password=<パスワード>  
Destination_authentication=<認証>  
Destination_systemID=<ID>  
Destination_clientID=<クライアント ID>  
lcmbiarpassword=<パスワード>
```

拡張移送/修正システムの使用

移送/修正システム (CTS) は、ABAP ワークベンチで開発プロジェクトを整理、カスタマイズし、システムランドスケープで SAP システム間の変更を移送します。拡張移送/修正システム (CTS+) は、非 ABAP コンテンツを CTS+ 対応の非 ABAP リポジトリ全体にわたって昇格させる CTS のアドオンです。

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform (BI プラットフォーム) InfoObject では、データソースとして SAP Business Warehouse コンテンツを使用できます。CTS+ とライフサイクルマネジメントコンソール (LCM) を統合することで、SAP Business Warehouse (BW) リポジトリと同様に、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform リポジトリを操作できます。これには、CTS 移送要求を使用して LCM ジョブを昇格します。CTS+ では、非 SAP オブジェクトをシステムランドスケープ内で移送することもできます。たとえば、開発システムで作成したオブジェクトを移送要求に添付して、ランドスケープ内の他のシステムに移送できます。

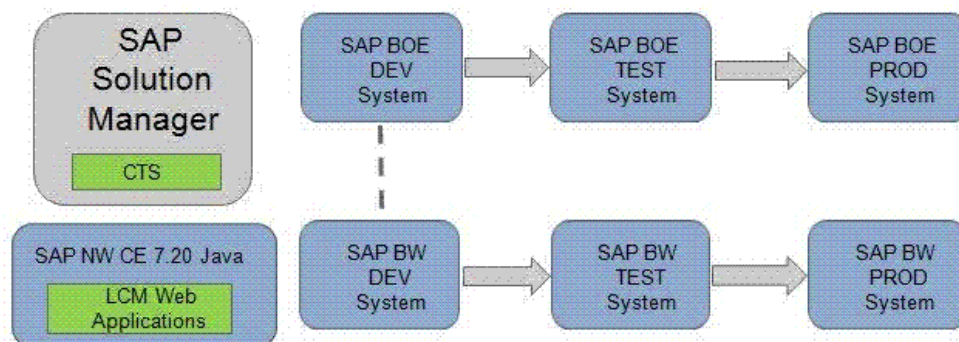
移送/修正システムの詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/3b/df/ba3692dc635ce10000009b38f839/frameset.htmを参照してください。

CTS+ および非 ABAP 移送の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/bb/6fab6036a146baa58e42fac032ab7b/frameset.htmを参照してください。

8.1 前提条件

- 1 『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 』(BI プラットフォーム) がインストールされている。
- 2 『SAP NetWeaver Composition Environment 7.2 』(SPS 03 以上) がインストールされており、これに BusinessObjects LCM Web アプリケーションが含まれている、またはこれに完全な 『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 』がデプロイされていること。
- 3 『SAP Solution Manager 7.0 EHP1 SP25 』がインストールされており、CTS+ のドメインコントローラとして使用されていること (少なくとも SAP BusinessObjects システムの設定に使用されていること)。
転送ドメインの設定の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a0a77acc11d1899e0000e829fbbd/frameset.htm を参照してください。
- 4 『SAP Business Warehouse 7.0 』(SPS 24 以上) システムがインストールされていること。詳細については、SAP ノート (<https://service.sap.com/sap/support/notes/1369301>) を参照してください。
- 5 SAP Business Warehouse (SAP BW) 転送ランドスケープが、移送/修正システムで設定されていること。

8.2 統合の設定



移送/修正システムの一部である移送管理システム (TMS) は、ランドスケープ内の SAP システム間の変更を転送するのに使用されます。接続されている各種システム、それらのルート、およびそれらのシステムへのインポートを管理します。移送管理システムの詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a0137acc11d1899e0000e829fbbd/frameset.htmを参照してください。

CTS+ は、外部からのファイルコレクションと、転送ランドスケープ内でのそれらの配布を有効にします。CTS+ の一部である移送オーガナイザ Web UI は、移送要求とそれに含まれるオブジェクトを管理します。詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a0137acc11d1899e0000e829fbbd/frameset.htmを参照してください。

CTS 移送要求を使用して、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform LCM を CTS+ および SAP BW に統合できます。

8.2.1 BusinessObjects の CTS の設定 – ライフサイクルマネジメントコンソールの用法

この節では、BusinessObjects の CTS を設定するために各システムで実行する設定手順 (ライフサイクルマネジメントコンソールの用法) について説明します。

- 1 BI プラットフォーム開発システムでは、次の 2 つの、マップする接続に関連する詳細事項を含むテキストファイルを作成する必要があります。
 - ・ 1 つまたは複数の RFC 宛先に対するソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform CMS。ソース SAP NW BW AS ABAP スタックを指定し、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform と SAP BW 開発システム間の依存関係のチェックを可能にします。
 - ・ Solution Manager CTS 内システムの論理名に対するソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform CMS。新しい移送要求の適切な名前を取得するために必要です。

ここで使用するマッピングパラメータの詳細については、次の表を参照してください。

パラメータ	説明
〈BW システム ID〉	このパラメータは、ソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムにおいて接続で使用される SAP BW オブジェクトを含む、SAP BW/ABAP マシンのシステム ID (SID) を表します。これは、出力先 SAP BW マシンへの SAP BW オブジェクトの転送元となるソース SAP BW マシンです。
〈RFC 出力先名〉	このパラメータは、上記の SAP BW/ABAP システムに接続するように設定されている RFC 宛先を表します。この RFC 宛先は、LCM がデプロイされる SAP NetWeaver マシン上に設定します。
〈BI プラットフォームソースシステム名〉@〈CMS ポート番号〉	このパラメータは、ジョブの作成中に LCM UI で選択されたソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムのシステム名およびポート名を表します。
〈CTS 設定で使用するのための、ソースシステムの論理名〉	このパラメータは、上記のソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムに論理的にマップされた SAP NetWeaver ソースシステムを表します。ソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムのオブジェクトは、転送システムにホストされた移送要求に、この SID を使用して添付されます。これは、LCM がデプロイされている SAP NetWeaver システムとは異なる可能性があります。このパラメータ名は自由に定義できますが、通常は 3 文字の頭文字を使用します。

ファイルをマップするには、次の手順を完了します。

- a SAP BusinessObjects Business Intelligence platform LCM CMS でルートディレクトリに移動し、パス 〈Business Intelligence Platform インストールパス〉/SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.0/ に LCM という名前のフォルダを作成します。
 - b このフォルダに、LCM_SID_RFC_MAPPING.properties という名前のテキストファイルを作成し、〈BW System ID〉 = 〈RFC 宛先名〉というエントリを作成します。たとえば、BWD=BWD.RFC とすると、BW 開発システムの SID は BWD です。
 - c LCM_SOURCE_CMS_SID_MAPPING.properties という名前で別のテキストファイルを作成し、このファイルに次のうちいずれかを入力します。
 - ・ 〈ドメイン付き SAP BusinessObjects Business Intelligence platform ソースシステムの完全名〉@〈CMS ポート番号〉 = 〈CTS 設定に使用するソースシステムの論理名〉
 - ・ 〈SAP BusinessObjects Business Intelligence platform ソースシステムの IP 番号〉@〈CMS ポート番号〉 = 〈CTS 設定に使用するソースシステムの論理名〉
- 2 SAP BusinessObjects Business Intelligence platform テストシステムおよび SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 実稼動システムでは、次を実行します。
 - a ユーザアカウントを作成し、各種の権限を割り当てます。

注

ランドスケープ全体で同一のユーザ ID を一貫して使用することを推奨します。

詳細については、『SAP BusinessObjects Enterprise 管理者ガイド』の『SAP 認証の設定』および『SAP BusinessObjects Enterprise ユーザアカウントの作成』を参照してください。

- 3 SAP NetWeaver Composition Environment 7.2 では、次を実行します。

- a SAP NetWeaver で、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 の Web アプリケーションをデプロイします。詳細については、『SAP BusinessObjects Enterprise 4.0 Web アプリケーションデプロイメントガイド』を参照してください。
- b CTS ABAP サーバに対する RFC 宛先を設定します。
 - 1 次の URL を使用して SAP NetWeaver Administrator にログインします: <http://<ホスト名>:<ポート>/nwa> 詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nwce72/helpdata/en/49/49b19720cc3b5be10000000a42189b/frameset.htm を参照してください。
 - 2 [設定] > [インフラストラクチャ] > [出力先] で、sap.com/com.sap.tc.di.CTSserver という RFC 宛先を作成します。

RFC 宛先の作成の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nwce72/helpdata/en/5a/97a066223e440b8ead3da027b17d9e/frameset.htm を参照してください。

ユーザには、SAP 標準プロファイル権限、SAP_CTS+ 権限、およびいくつかの追加権限を割り当てる必要があります。追加権限の詳細については、SAP ノート (<https://service.sap.com/sap/support/notes/1003674>) にある、お使いの Solution Manager システムで使用される SAP NetWeaver version に関連する、「既知のエラー」の節を参照してください。

- c 次の手順を完了して、すべての SAP BW 開発システムに対して RFC 宛先を設定します。
 - 1 次の URL を使用して SAP NetWeaver Administrator にログインします: <http://<ホスト名>:<ポート>/nwa> 詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nwce72/helpdata/en/49/49b19720cc3b5be10000000a42189b/frameset.htm を参照してください。
 - 2 [設定] > [出力先] を選択します。[出力先] 画面が表示されます。出力先の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nwce72/helpdata/en/c4/4bf969fb2a48908224679e83e9d805/frameset.htm を参照してください。
 - 3 [作成] をクリックします。
 - 4 [ホストシステム]、[出力先名] および [出力先の種類] フィールドに適切な詳細を入力します。

注

ここに入力する詳細は、SAP BW SID (ソース ABAP システム) の認証情報であり、これにはソース SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 接続で使用される SAP BW オブジェクトが含まれます。

- 5 [次へ] をクリックして処理を完了します。
- 4 Solution Manager CTS ABAP では、次の手順を実行します。
 - a 次の手順を完了して、CTS+ の機能を有効化します。
 - 1 CTS 管理権限を持つユーザで、Solution Manager システムにログインします。
 - 2 トランザクション SE38 に移動します。
 - 3 [プログラム] > [実行] > [直接処理] を選択して、レポート RSTMS007 を実行します。または、F8 キーを押しても実行できます。

TMS のレポート画面が表示されます。

 - 4 キーフィールドに「*CTSBOLM42」という値を入力して、実行します。

実行に成功すると、「エントリが存在します」というメッセージが表示されます。
 - b 次の手順を完了して、SAP BusinessObjects LCM アプリケーション (BOLM) の CTS+ ドメインを有効化します。
 - 1 CTS+ ドメインコントローラにログインします。
 - 2 STMS トランザクションを呼び出します。

- 3 [概要] > [システム] をクリックします。
[システムの概要] 画面が表示されます。
- 4 有効化されたアプリケーションタイプのドメインを設定するには、[補足] > [アプリケーションの種類] > [設定] をクリックします。
- 5 [編集] > [新規エントリ] をクリックします。
[新規エントリ] 画面が表示されます。
- 6 [アプリケーションの種類]、[説明]、および [サポートの詳細] の各フィールドに、BOLM、BO LCM と CTS+ の統合、および <http://service.sap.com> (ACH: BOJ-BIP-DEP) をそれぞれ入力します。
- 7 [テーブルビュー] > [保存] をクリックします。
確認ポップアップが表示されます。
- 8 [はい] をクリックします。
- 9 別の言語を扱う場合、次の手順で翻訳されたテキストを管理できます。
 - a [ジャンプ] > [翻訳] を選択します。
 - b テキストを翻訳する言語を選択します。
 - c [説明] および [サポートの詳細] フィールドに翻訳された値を入力します。
 - d ダイアログボックスを確認します。
 - e [続行] をクリックします。
 - f [テーブルビュー] > [保存] を選択します。
 - g プロンプトを確認します。

これで、TMS ドメインが、CTS で BO LCM コンテンツの使用をサポートする準備ができました。
- c CTS+ で、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform ソースシステムをエクスポートシステムとして定義します。

注

LCM プロパティファイルの LCM_SOURCE_CMS_SID_MAPPING で定義したソースシステムの論理名を使用します。

ソースシステムとしての非 ABAP システムの作成の詳細については、

http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/bf/e4626214504be18b2f1abeeaf4f8e4/frameset.htm を参照してください。

- d 次の手順を完了して、CTS+ で SAP BusinessObjects Business Intelligence platform インポートシステムを設定します。

注

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform インポートシステムへの参照として、自由に SID を定義できます。

- 1 インポートシステムとして非 ABAP システムを作成します。詳細については、
http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/bf/e4626214504be18b2f1abeeaf4f8e4/frameset.htm を参照してください。
- 2 デプロイメント方法に [その他] を指定し、他のすべてのオプションを選択解除します。
- 3 [保存] をクリックします。
- 4 [ディストリビューション] ダイアログボックスを確認します。

インポートシステム設定を設定するテーブルビューが表示されます。

- 5 [編集] > [新規エントリ] を選択します。
- 6 [新規エントリ] 画面で、次の内容を入力します。

Application Type: BOLM

Deploy URL: `http://<SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Web サーバ名>:<Web サーバポート>/BOE/LCM/CTSServlet?&cmsName=<SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 出力先名>:<CMS ポート>&authType=<SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 認証タイプ>`

入力例: Deploy URL:`http://10.66.149.22:8080/BOE/LCM/CTSServlet?&cmsName=10.66.149.22:6400&authType=secSAPR3`

注

デプロイ URL には、LCM CMS 名と出力先 SAP BusinessObjects Business Intelligence platform CMS 名が含まれます。

- 7 出力先 CMS ユーザ名とパスワードを入力し、SAP 認証を使用します。
ユーザ名はシステム ID~クライアント ID¥ユーザ名の形式にします。入力例: WA1~001¥OTOADMIN

注

CTS+ を使用して出力先システムに昇格されたすべてのジョブは、デフォルトでこのユーザ名とパスワードを使用します。

- 8 設定を保存します。
- e 複数のターゲットシステムが必要な場合は、上記の手順を繰り返し、必要なすべての出力先システムを作成します。
- f 出力先システムの作成後に、ソースシステムとターゲットシステム間の転送ルートを設定するには、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a1df7acc11d1899e0000e829fbbd/frameset.htm を参照してください。
- 5 SAP BW 開発システムでは、次の手順を完了します。
 - a [ツール] > [管理] > [ユーザ管理] > [ユーザ] に移動し、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform LCM ツールで使用するものと同じユーザ ID を持つユーザを作成します。
 - b これらのユーザに RFC AUTH 権限および BW AUTH 権限を割り当て、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 開発システムから依存関係を確認します。
- 6 SAP BW テストシステムおよび SAP BW 稼動システムでは、次の手順を完了します。
 - a 同じ ID を持つユーザを作成します。

注

この場合、CTS+ を統合するのに特別な権限は必要ありません。

非 ABAP システムでの設定手順の実行の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70/helpdata/en/d4/3bab83106941f08ad1f2e1ec14375e/frameset.htm を参照してください。

8.3 CTS を使用したジョブの昇格

この節では、ライフサイクルマネジメントコンソールツールでサポートされている、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Central Management Server (CMS) オブジェクトを、移送/修正システムを使用してソースシステムから出力先システムに昇格するワークフローについて説明します。CTS を使用してジョブを昇格するには、次の手順を完了します。

- 1 SAP 認証を使用してライフサイクルマネジメントコンソールツールにログインし、ジョブを作成します。
新しいジョブの作成の詳細については、「新しいジョブの作成」に関するトピックを参照してください。
- 2 [出力先] ドロップダウンリストから、[CTS+ と昇格] オプション



を選択します。

- 3 [作成] をクリックします。
[システムからオブジェクトを追加] 画面が表示されます。ツリー構造でフォルダとサブフォルダが表示されます。
- 4 InfoObject を選択するフォルダに移動します。
- 5 ジョブに追加する InfoObject を選択してから、[追加] をクリックします。InfoObject を 1 つ追加して [オブジェクトの追加] 画面を終了するには、[追加して閉じる] をクリックします。
ジョブに InfoObject が追加され、[昇格ジョブ] 画面が表示されます。

注

[昇格ジョブ] 画面で、次のことを実行できます。

- ・ [オブジェクトの追加] オプションを使用して、ジョブに InfoObject を追加する。詳細については、「ジョブへの InfoObject の追加」を参照してください。
- ・ [依存関係の管理] オプションを使用して、選択した InfoObject の依存関係を管理する。オブジェクトの SAP BW の依存関係が UI に表示され、ユーザが選択できます。

詳細については、ジョブの依存関係の管理に関するトピックを参照してください。

- 6 [昇格] をクリックします。
[昇格] 画面に、ID、所有者、およびデフォルト移送要求の現在の設定に関する簡単な説明が表示されます。
- 7 [移送要求] ハイパーリンクを使用して、次のことを実行できます。
 - ・ 移送要求の詳細を表示する。
 - ・ デフォルトの移送要求の設定を変更する。
 - ・ 別の移送要求を選択する。
 - ・ 移送要求を作成する。

- a [移送要求] ハイパーリンクをクリックして、[移送オーガナイザ] Web ユーザインタフェースを開きます。
- b ログオン認証情報を要求された場合は、有効な CTS ドメインコントローラシステムのユーザ認証情報を使用してログオンします。
- c [昇格] 画面を最新表示して、更新内容を表示します。

[移送オーガナイザ] Web UI の使用の詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/b5/6d03660d3745938cd46d6f5f9cef2e/frameset.htmを参照してください。

- 8 SAP BW オブジェクトの依存関係の詳細を表示するには、[第 2 レベルの依存オブジェクト] ハイパーリンクをクリックします。

注

[第 2 レベルの依存オブジェクト] ハイパーリンクをクリックすると、要求内にロックされているオブジェクトだけが表示されます。要求がリリース済みの場合は、いずれの依存関係も表示されません。また、アクティブな第 2 レベルの依存関係がない場合、このハイパーリンクは灰色で表示されます。

- 9 [昇格] をクリックします。
- 10 ジョブを閉じます。
LCM のメイン画面が表示されます。作成したジョブのステータスは、[CTS+ にエクスポートしました] となります。
- 11 次の手順を完了して、出力先システムに SAP BusinessObjects Business Intelligence platform オブジェクトをリリースします。
 - a 昇格するジョブの [ステータス] 列に表示されているリンクをクリックします。
[昇格のステータス] ウィンドウが表示されます。
 - b [リクエストのステータス] をクリックします。
[移送オーガナイザ] Web UI が表示されます。
 - c リクエストのステータスが [変更可能] の場合、[リリース] をクリックして SAP BusinessObjects Business Intelligence platform オブジェクトの移送要求をリリースします。非 ABAP オブジェクトを含む移送要求のリリースの詳細については、http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/55/07c497db8140ef8176715d4728eec1/frameset.htmを参照してください。
 - d [移送オーガナイザ] Web UI を閉じます。
- 12 SAP BW オブジェクトの依存関係を表示するには、[BW 依存オブジェクトの一覧] ハイパーリンクをクリックします。

注

SAP BW 依存関係の更新やこれらのリリースは SAP BW チームによって操作されるため、これらのオブジェクトにアクセスするときには、このチームに確認することをお勧めします。

- 13 [昇格のステータス] ウィンドウを閉じます。
- 14 次の手順を完了して、出力先システムに SAP BusinessObjects Business Intelligence platform オブジェクトをインポートします。
 - a CTS+ ドメインコントローラにログオンします。
 - b 移送管理システムに入るには、STMS トランザクションを呼び出します。
 - c [インポートの概要] アイコンをクリックします。
[インポートの概要] 画面が表示され、すべてのシステムから、インポートキューのアイテムを見ることができます。
 - d 出力先 LCM システムのシステム ID を選択します。
システムにインポートできる移送要求の一覧を確認できます。
 - e [最新表示] をクリックします。

- f 関連する移送要求をインポートします。詳細については、
[http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a39e7acc11d1899e0000e829fbbd/frame
 set.htm](http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a39e7acc11d1899e0000e829fbbd/frame

 set.htm)を参照してください。
 BOLM コンテンツを含む移送要求のインポートに関する一般的な情報については、
http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/09/ca0f3a878f46e9a5a32e666131d2ba/frameset.htm
 を参照してください。

15 選択したオブジェクトに SAP BW 依存関係が含まれる場合、次の手順を実行します。

- a 次の手順を完了して、出力先システムに SAP BW 依存関係をリリースします。
- 1 SAP BW ソースシステムにログオンします。
 - 2 SE09 トランザクションを呼び出します。[移送オーガナイザ] 画面が表示されます。
 - 3 [表示] をクリックします。SAP BW 要求が表示されます。
 - 4 SAP BW 要求をクリックして展開し、依存関係に作成されたタスクを表示します。
 - 5 一次 SAP BW オブジェクトに関連付けられた要求を右クリックして、[直接リリースする] を選択しま
 す。この手順を繰り返して、各依存オブジェクトに関連付けられているすべてのタスクを個別にリリー
 スします。
 - 6 一次 BW オブジェクトに関連付けられた要求を右クリックして、[直接リリースする] を選択します。
 - 7 すべての要求がリリースされるまで、画面を最新表示します。

注

要求のログをダブルクリックすると表示できます。

- b 次の手順を完了して、出力先システムに SAP BW 依存関係をインポートします。

- 1 SAP BW 出力先システムにログオンします。
- 2 移送管理システムに入るには、STMS トランザクションを呼び出します。
- 3 [インポートの概要] アイコンをクリックします。[インポートの概要] 画面が表示されます。
- 4 SAP BW 出力先のシステム ID をダブルクリックします。システムにインポートできる移送要求の一覧
 を確認できます。
- 5 関連する移送要求をインポートします。詳細については、
[http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a39e7acc11d1899e0000e829fbbd/frame
 set.htm](http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpdata/en/44/b4a39e7acc11d1899e0000e829fbbd/frame

 set.htm)を参照してください。

インポートキューを含む転送の詳細については、[http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpda
 ta/en/65/8a99386185c064e10000009b38f8cf/frameset.htm](http://help.sap.com/saphelp_nw70ehp1/helpda

 ta/en/65/8a99386185c064e10000009b38f8cf/frameset.htm)を参照してください。

16 出力先 LCM システムにログオンして、昇格したジョブのステータスを表示します。

関連項目

- ・ 25 ページの[ジョブの新規作成](#)」
- ・ 30 ページの[ジョブの依存関係の管理](#)」

より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

B

BIAR ファイル 35

C

CMS 7

E

Enterprise 認証 13

I

InfoObject
さまざまなバージョン 45
昇格 35
追加 29

L

LDAP 認証 13

S

SAP BusinessObjects Enterprise システム 30
SubVersion 45
SubVersion の設定 20

V

VMS 設定 14
VMS リポジットリ 45

W

Windows AD 認証 13

い

依存オブジェクト 30
検索 30
依存関係 5
依存関係の管理 7, 29
一部ロールバック 42
インスタンス
一時停止中 39
定期 39

インスタンスの削除 7
インポート
ジョブ 36

う

上書き設定 14

お

オブジェクトの削除 7
オブジェクトの編集 7

か

開発 5
外部変更管理 ID 32
監査 7
完全ロールバック 42
管理オプション 7
管理者および詳細パネル 11

き

キーワードの検索 28
基本設定 11, 23

け

検索 11
依存オブジェクト 30

こ

更新
昇格インスタンス 39
コピー
既存ジョブ 27

さ

サードパーティオブジェクト 32
作成 5

し

システムの管理 14
ホスト名
表示名 14

システムの管理 (続き)

ホスト名 (続き)
ポート番号 14

実行オプション 37

昇格タスク 29

昇格テスト 7, 32

ショッピングカートおよびジョブビューア
ページ 11

ジョブ

エクスポート 35

編集 29

ロールバック 41

ジョブセッション 7

ジョブ設定 14, 20

ジョブ内のオブジェクト 30

ジョブのインポート

BIAR ファイル 36

ジョブのエクスポート 35

ジョブの新規作成

GUI 要素 25

既存ジョブのコピー 27

ジョブのスケジュール 7

す

スケジュール

ジョブの昇格 37, 38

スケジュール設定 32

すべてのフィールドの検索 28

せ

製品ライフサイクル 5

セキュリティ 7

セキュリティの昇格 32

セキュリティを伴う昇格 8

セキュリティを伴わない昇格 8

説明の検索 28

た

タイトルの検索 28

つ

追加

InfoObject 29

ツリーパネル 11

て

定期的なスケジュールパターン
 ライフサイクルマネジメントコンソール
 ツール 37
テスト 5

と

動作
 アプリケーションの権限 8

に

認証 25
 Enterprise 13
 LDAP 13
 SAP 13
 Windows AD 13

は

バージョン管理システム 45

ひ

ビジネスインテリジェンス 5
ビジネスインテリジェンスプラットフォーム
 32
ビジネスビュー 32
表示
 ジョブ履歴 40
表示権限 32

ふ

フィルタ 30
プライマリリソース 30
プロモーション 7

へ

ベースバージョン 45
編集
 ジョブ 29

ま

マッピング
 スケジュールリング 7
 接続マッピング
 Crystal レポートマッピング 7
 QaaWS マッピング 7
 フェデレーションマッピング 7

ゆ

ユーザ権限 7
ユニバース 30
ユニバース制限セット 30

ら

ライフサイクルマネジメントコンソール 5
 機能 5
 ジョブの昇格 32
 ジョブのロールバック 41

ライフサイクルマネジメントコンソール (続
 き)
 リポジトリ 32
 ワークフロー 32
ライフサイクルマネジメントコンソールツ
 ール
 定期パターン 37
ライフサイクルマネジメントツール
 昇格ジョブ 25
ライフサイクルマネジメントリポジトリ 28

り

履歴 11
 ジョブ 40

れ

レポート 32

ろ

ロールバック
 InfoObject 42, 43
 ジョブ 41, 42
 処理 42
ロールバック設定 14, 19
ロールバックの選択 42

わ

ワークスペースパネル 11